

II. 調查報告

(1) 障害児・者のスポーツライフに関する調査

主な調査結果

週 1 日以上スポーツ・レクリエーションの実施は、7～19 歳が 31.5%、成人が 19.2%

障害児・者が週 1 日以上、何らかのスポーツ・レクリエーションを実施していたのは、7～19 歳が 31.5%、成人が 19.2%だった。障害種別では、7～19 歳では、視覚障害、聴覚障害の約 4 割が週 1 日以上スポーツ・レクリエーションを実施しているのに対して、肢体不自由(車椅子必要)では約 1 割だった。成人では、ほとんどの障害で約 2 割だったが、肢体不自由(車椅子必要)では約 1 割だった。【図表 1-16、1-17】

過去 1 年間に実施したスポーツ・レクリエーションの上位種目は、7～19 歳が水泳、散歩、体操、成人が散歩、ウォーキング、水泳

過去 1 年間にスポーツ・レクリエーションを実施した人が行った種目は、7～19 歳では「水泳」「散歩(ぶらぶら歩き)」「体操(軽い体操、ラジオ体操など)」、成人では「散歩(ぶらぶら歩き)」が最も多く、次いで「ウォーキング」「水泳」「体操(軽い体操、ラジオ体操など)」が多い。【図表 1-21、1-22】

スポーツ・レクリエーションを行う主な目的は、健康の維持・増進、気分転換・ストレス解消のため

スポーツ・レクリエーションは、主に「健康の維持・増進のため」「気分転換・ストレス解消のため」を目的に実施されている。肢体不自由では「リハビリテーションの一環として」、知的障害では「健常者との交流のため」に実施している人が、ほかの障害と比べて多かった。【図表 1-26、1-27】

半数の障害児・者がスポーツ・レクリエーションに関心がない

スポーツ・レクリエーションの取組に対して、「特にスポーツ・レクリエーションに関心はない」との回答が 51.9%を占めており、2 人に 1 人の障害児・者がスポーツ・レクリエーションに無関心であった。重度の障害者を障害種別にみると、肢体不自由(車椅子必要)では 36.9%が「スポーツ・レクリエーションを行いたいと思うができない」となり、本人の興味・関心があるが実施できていない実態が明らかになった。【図表 1-33、1-35、1-36】

スポーツ観戦は、直接観戦、テレビ観戦、インターネット観戦ともにプロ野球が第一位

スポーツ観戦では、直接観戦では、「プロ野球(NPB)」「高校野球」「J リーグ」、テレビ観戦では、「プロ野球(NPB)」「大相撲」「高校野球」、インターネット観戦では、「プロ野球(NPB)」「高校野球」「メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)」が多かった。一方で、約 7 割の障害児・者が直接観戦したことがなく、スポーツ観戦の環境整備が課題と言える。【図表 1-36、1-39】

1. 調査概要

1. 1 調査目的

本調査は、全国の障害児・者のスポーツ・レクリエーション活動の実施状況やニーズを把握し、今後の障害児・者へのスポーツ環境の提供に関する基礎情報を得ることを目的とする。

1. 2 調査方法及び回収結果

(1) 調査方法

無記名式のインターネット調査

(2) 調査内容

主な調査項目は、以下のとおりである。

- ・障害児・者の基本情報(障害の種類、障害者手帳の保有状況など)
- ・スポーツ・レクリエーションの実施状況(実施種目、頻度、施設、目的など)
- ・スポーツ・レクリエーションの実施における障壁
- ・今後行いたいと思うスポーツ・レクリエーション
- ・スポーツクラブや同好会・サークルへの加入
- ・過去1年間のスポーツ観戦

(3) 調査対象及び回収結果

インターネット調査会社が保有するリサーチモニターのうち、以下に該当する者を調査対象とした。

- ・障害児・者本人あるいは同居する家族で障害児・者がいる
- ・障害児がいる場合、7歳以上である

該当する回答者は4,951人であった。その属性は以下のとおりである(図表1-1、図表1-2、図表1-3)。兄弟、姉妹、第2子以降の子で障害児・者が複数いる場合は、それぞれ年齢が一番上の者についてのみ、回答を依頼した。その結果、回答者本人及び同居する家族内の障害児・者を含めた障害児・者の総数は6,449人であった。

図表 1-1 回答者の居住地

(N=4,951)

居住地	%
北海道地方	5.8
東北地方	5.8
関東地方	36.2
中部地方	16.7
近畿地方	20.0
中国地方	5.1
四国地方	2.6
九州・沖縄地方	7.8

図表 1-2 回答者の年齢

(N=4,951)

年齢	%
19 歳以下	1.0
20～29 歳	8.8
30～39 歳	19.0
40～49 歳	29.4
50～64 歳	34.4
65～74 歳	6.4
75 歳以上	1.0

図表 1-3 回答者の性別

(N=4,951)

性別	%
男性	59.1
女性	40.9

(4) 調査期間

2015 年 7 月 16 日～2015 年 7 月 31 日

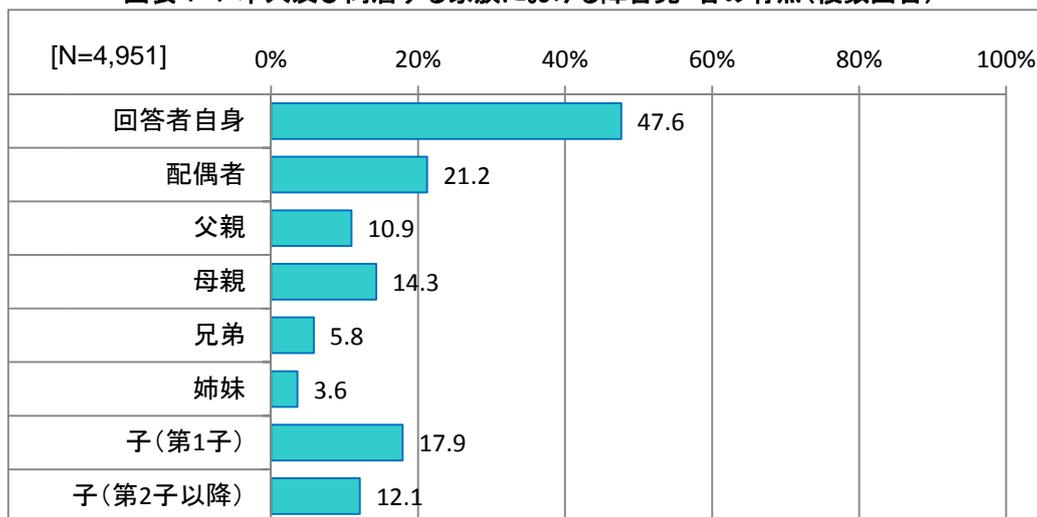
2. 調査結果

2.1 障害児・者の属性

(1) 本人あるいは同居する家族における障害児・者の有無

回答者本人あるいは同居する家族に障害児・者がいるかについて、「回答者自身」(47.6%)が最も多く、次いで「配偶者」(21.2%)、「子(第1子)」(17.9%)であった(図表 1-4)。

図表 1-4 本人及び同居する家族における障害児・者の有無(複数回答)

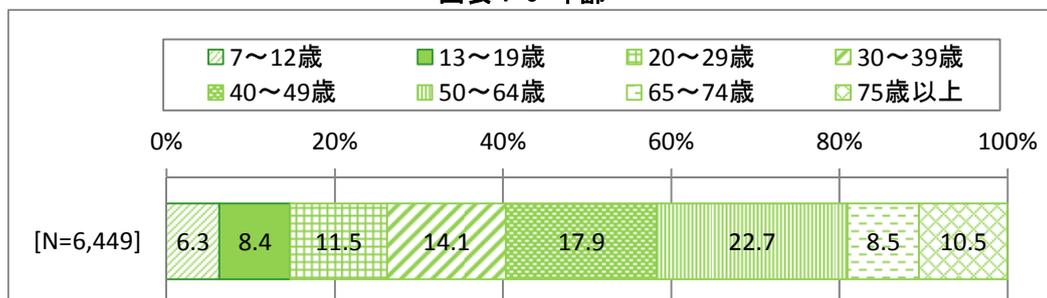


以後の報告では、障害児・者本人及び同居する障害児・者 6,449 人に関する回答結果を示す。

(2) 年齢

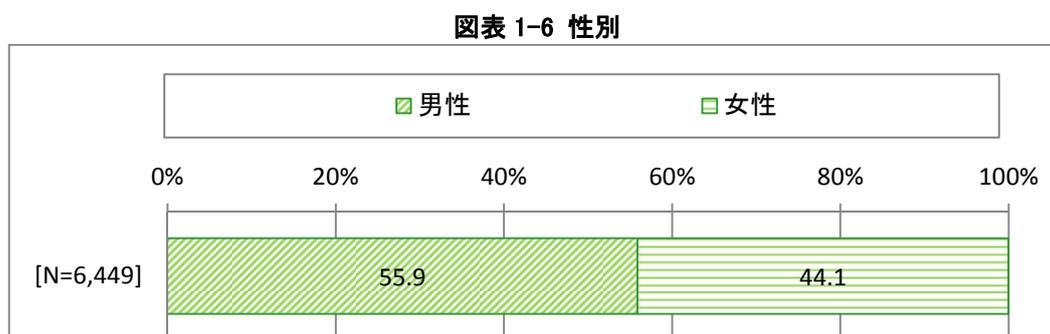
年齢は、7～19歳が14.7%、20～64歳が66.3%、65歳以上が19.0%であった(図表 1-5)。総務省の人口推計(2014年10月1日)では、7～19歳が11.7%、20～64歳が56.5%、65歳以上が26.0%であった。本調査の障害児・者の年齢分布は、国民全体と比べると高齢者の割合が低くなっている。

図表 1-5 年齢



(3) 性別

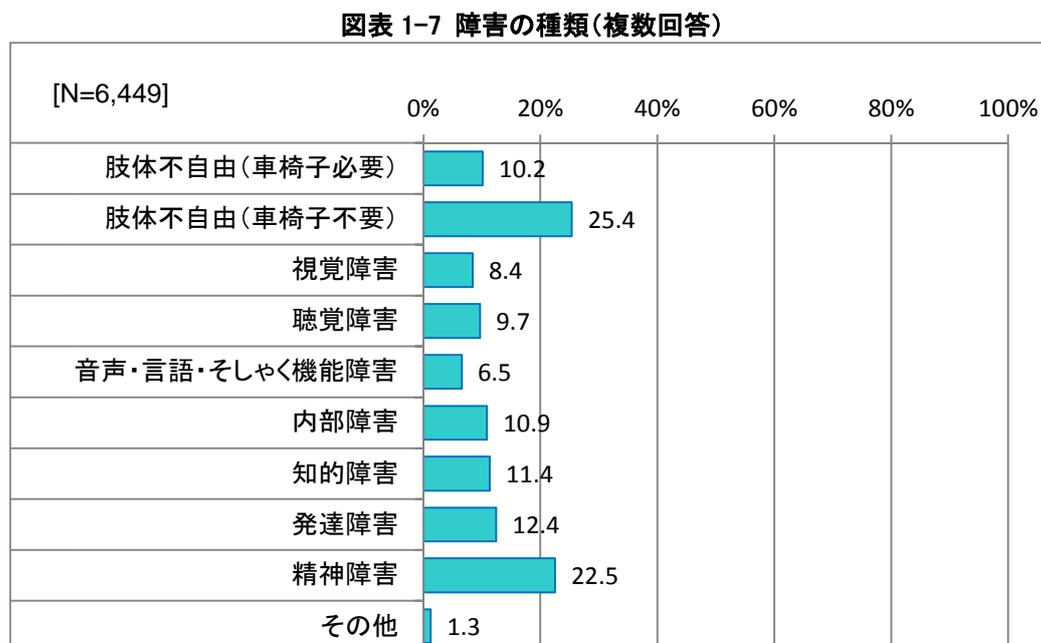
性別は、「男性」が55.9%、「女性」が44.1%であった(図表 1-6)。



(4) 障害の種類

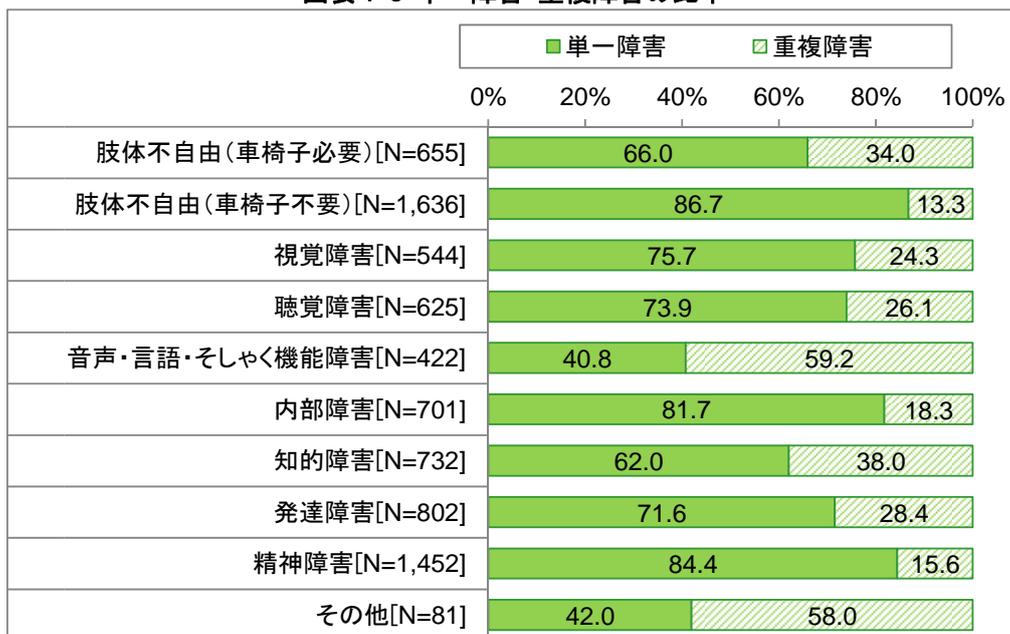
障害の種類は、「肢体不自由」が最も多く、日常生活で車椅子を必要とする人(10.2%)と必要としない人(25.4%)を合わせると、回答者の 3 分の 1 を占めた。以下、「精神障害」(22.5%)、「発達障害」(12.4%)、「知的障害」(11.4%)の順となっている(図表 1-7)。内閣府「障害者白書」(2015)によると、わが国の身体障害児・者は約 393 万 7,000 人(総人口の 3.1%)、知的障害児・者は約 74 万 1,000 人(総人口の 0.6%)、精神障害児・者は約 320 万 1,000 人(総人口の 2.5%)となっている。本調査では、身体障害、知的障害の出現率が高くなっている。

重複障害の割合を障害種別に見ると、「音声・言語・そしゃく機能障害」が59.2%と最も高く、「知的障害」「肢体不自由(車椅子必要)」でも、ほかの障害に比べて重複障害の割合が高い傾向が見られた(図表 1-8)。



注)車椅子必要／不要とは、日常生活で車椅子を必要とする／必要としないこと。

図表 1-8 単一障害・重複障害の比率



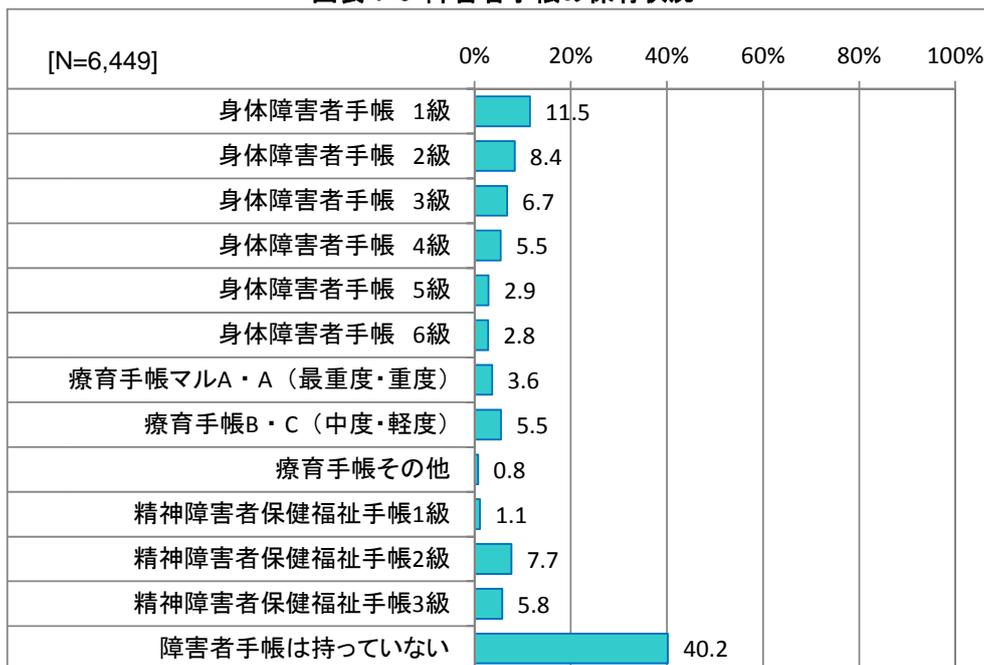
注)車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

(5) 障害者手帳の保有状況について

障害者手帳の保有状況について、「障害者手帳は持っていない」が 40.2%であった。障害者手帳を持っている人の中では、「身体障害者手帳 1 級」(11.5%)が最も多く、次いで、「身体障害者手帳 2 級」(8.4%)、「精神障害者保健福祉手帳 2 級」(7.7%)であった(図表 1-9)。身体障害者手帳では、等級が高いほど保有率が高い傾向が見られた。障害種別の障害者手帳の保有状況からは、重複して手帳を保持していることが分かる(図表 1-10)。

年齢別に見ると、65 歳以上の身体障害者手帳の保有がほかの年齢層に比べて高かった。療育手帳、精神障害者保健福祉手帳では、年齢による差は見られなかった(図表 1-11)。

図表 1-9 障害者手帳の保有状況



図表 1-10 障害者手帳の保有状況(障害種別)

(%)

	肢体不自由(車椅子必要)	肢体不自由(車椅子不要)	視覚障害	聴覚障害	知的障害	発達障害	精神障害	その他(音声・言語・そしゃく機能障害や内部障害を含む)
	N=703	N=1,679	N=567	N=651	N=807	N=837	N=1,513	N=1,185
身体障害者手帳 1 級	35.3	6.9	14.8	7.7	9.3	4.9	2.4	30.4
身体障害者手帳 2 級	16.2	10.6	13.9	15.5	5.0	2.6	3.4	7.4
身体障害者手帳 3 級	7.1	10.3	6.7	9.2	4.5	1.8	3.0	10.9
身体障害者手帳 4 級	3.8	9.3	4.4	6.1	2.5	1.3	1.5	8.7
身体障害者手帳 5 級	2.3	5.8	6.3	2.9	1.5	0.7	0.9	2.5
身体障害者手帳 6 級	1.4	4.6	3.7	8.3	0.6	0.5	0.9	2.4
療育手帳マル A・A(最重度・重度)	4.3	1.2	1.6	1.8	24.9	7.2	0.9	3.2
療育手帳 B・C(中度・軽度)	0.4	0.5	0.5	0.8	30.7	18.3	1.3	1.5
療育手帳その他	0.0	0.4	0.5	1.1	2.4	2.3	0.3	0.5
精神障害者保健福祉手帳 1 級	0.7	0.4	0.7	0.6	1.2	0.8	3.9	0.8
精神障害者保健福祉手帳 2 級	1.0	1.1	1.2	0.8	2.7	8.8	28.2	1.4
精神障害者保健福祉手帳 3 級	0.6	0.7	0.9	1.5	2.5	7.9	20.4	1.3
障害者手帳は持っていない	26.9	48.2	44.6	43.6	12.3	42.9	32.8	28.9

注 1) 車椅子必要／不要とは、日常生活で車椅子を必要とする／必要としないこと。

注 2) 重複障害の場合は、該当の障害全ての数値に含む。

図表 1-11 障害者手帳の保有状況(年齢別)

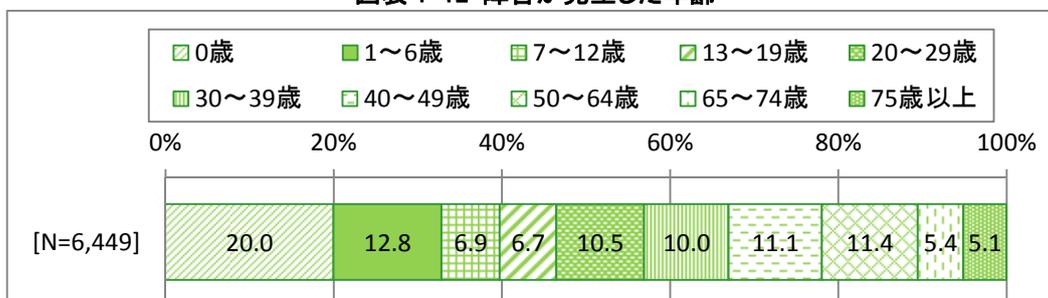
(%)

	19 歳以下	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～64 歳	65～74 歳	75 歳以上
	N=61	N=634	N=1,289	N=1,862	N=2,183	N=366	N=54
身体障害者手帳 1 級	6.6	8.2	8.5	10.6	14.2	16.4	16.7
身体障害者手帳 2 級	4.9	6.5	7.6	7.8	9.2	12.3	9.3
身体障害者手帳 3 級	9.8	4.7	5.2	4.8	8.1	15.6	16.7
身体障害者手帳 4 級	3.3	3.8	4.0	5.5	6.2	9.0	5.6
身体障害者手帳 5 級	4.9	3.5	2.6	2.4	3.2	3.8	3.7
身体障害者手帳 6 級	4.9	3.2	2.1	2.8	2.7	4.6	3.7
療育手帳マル A・A(最重度・重度)	6.6	1.3	2.9	4.2	4.0	4.9	0.0
療育手帳 B・C(中度・軽度)	4.9	3.8	5.1	6.9	5.5	3.0	3.7
療育手帳その他	0.0	1.6	1.0	0.7	0.5	0.3	0.0
精神障害者保健福祉手帳 1 級	0.0	1.3	1.3	0.9	1.2	1.1	0.0
精神障害者保健福祉手帳 2 級	4.9	7.1	7.7	9.4	7.2	4.1	3.7
精神障害者保健福祉手帳 3 級	1.6	5.4	7.0	7.0	4.9	1.9	1.9
障害者手帳は持っていない	52.5	51.7	48.5	39.4	34.7	26.2	38.9

(6) 障害が発生した年齢

障害が発生した年齢は、「0歳」が20.0%、「1～6歳」が12.8%で、出生前・出生時や小学校就学前が全体の3割を占めている(図表1-12)。また、40歳以降に障害が発生した人も3割を超えており、障害が発生した年齢は多様であることが分かる。

図表 1-12 障害が発生した年齢



注)複数の障害がある場合は、最初に障害が発生した年齢を回答。

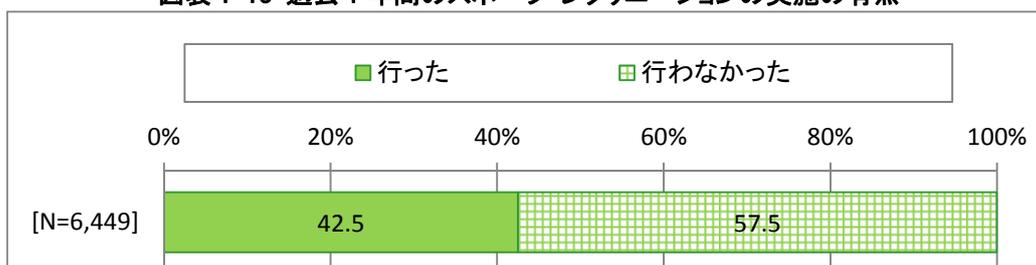
2. 2 スポーツ・レクリエーションの実施

(1) 過去1年間のスポーツ・レクリエーションの実施の有無

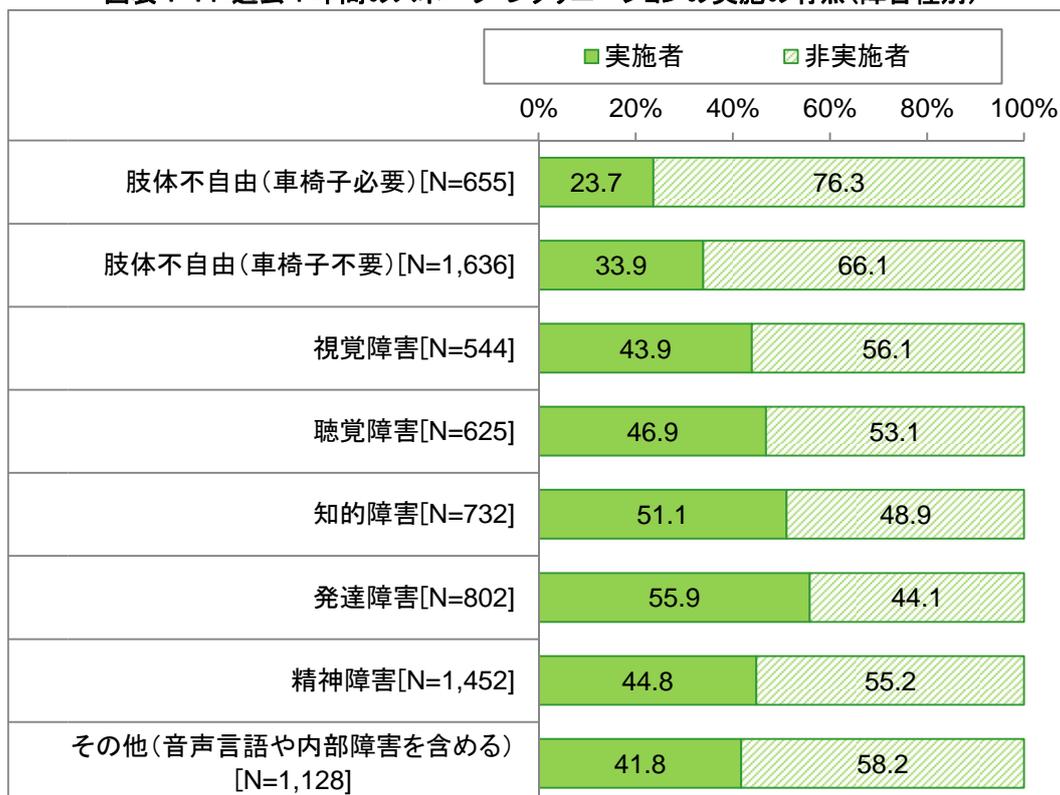
過去1年間のスポーツ・レクリエーションの実施の有無について、「行った」が42.5%であった(図表1-13)。平成25年度文科省調査の結果では、44.4%であった。笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」(2014)によると、成人の年1回以上の運動・スポーツ実施者の割合は73.6%となっており、障害児・者のスポーツ実施率は一般に比べて低いことが分かる。

障害種別に見ると、「肢体不自由(車椅子必要)」(23.7%)、「肢体不自由(車椅子不要)」(33.9%)の実施率が低い一方で、「発達障害」(55.9%)、「知的障害」(51.1%)、「聴覚障害」(46.9%)の実施率が高かった(図表1-14)。

図表 1-13 過去1年間のスポーツ・レクリエーションの実施の有無



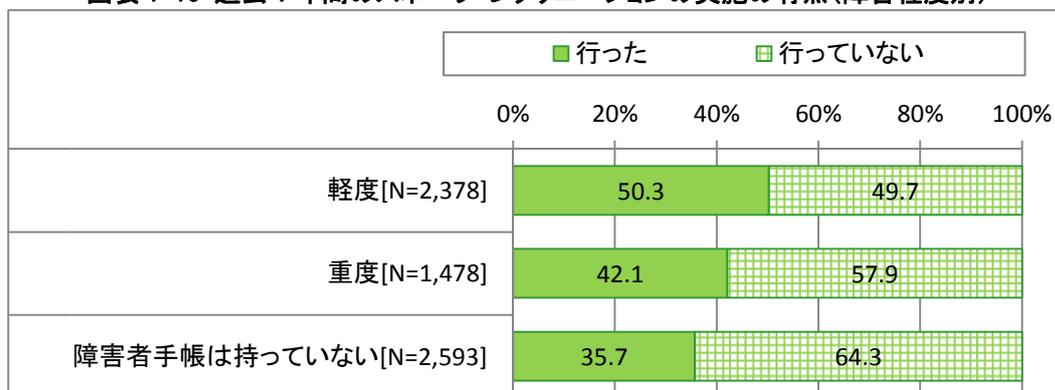
図表 1-14 過去1年間のスポーツ・レクリエーションの実施の有無(障害種別)



注)車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

障害の程度別に見ると、軽度の障害児・者では、スポーツ・レクリエーションの実施者が非実施者を上回るが、重度障害児・者や手帳を持っていない障害児・者では非実施者の割合が高かった(図表 1-15)。

図表 1-15 過去 1 年間のスポーツ・レクリエーションの実施の有無(障害程度別)



注) 重度／軽度の分類は以下のとおりである。

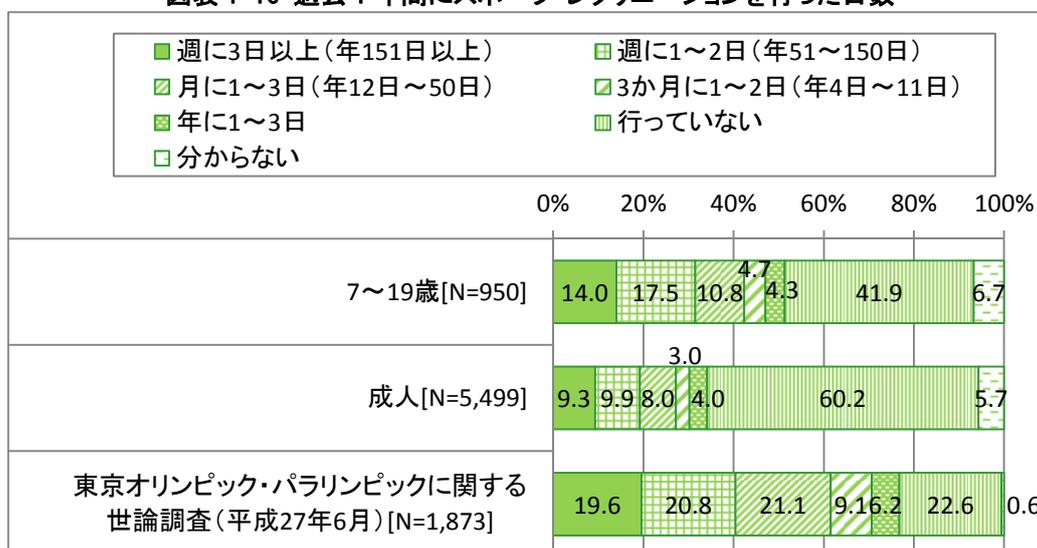
- ・重度: 身体障害者手帳 1 級もしくは 2 級、あるいは療育手帳マル A・A の保持者
- ・軽度: 上記以外の障害者手帳保持者

(2) 過去1年間にスポーツ・レクリエーションを行った日数

過去1年間にスポーツ・レクリエーションを行った日数について、19歳以下と成人に分けて集計した。7～19歳では、「週に3日以上」が14.0%、「週に1～2日」が17.5%と、週1日以上の実施者が31.5%であるのに対して、「行っていない」が約4割であった。成人では、「週に3日以上」と「週に1～2日」を合わせた週1日以上の実施者が19.2%、「行っていない」が約6割を占めた(図表1-16)。内閣府が全国の成人を対象に実施している「東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査」(平成27年6月)では、週1日以上の実施者は40.5%となっており、障害者のスポーツ実施頻度が低いことが分かる。また、平成25年度文科省調査では、週1回以上の実施者は19歳以下が30.7%、成人が18.2%だった。

障害種別では、7～19歳では、視覚障害、聴覚障害の約4割が週1回以上スポーツ・レクリエーションを実施しているのに対して、肢体不自由(車椅子必要)では約1割だった。成人では、ほとんどの障害で約2割だったが、肢体不自由(車椅子必要)では約1割だった(図表1-17)。

図表1-16 過去1年間にスポーツ・レクリエーションを行った日数



注)内閣府「東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査」(平成27年6月):全国20歳以上の日本国籍を有する者が対象。

図表 1-17 過去 1 年間にスポーツ・レクリエーションを行った日数(障害種別/7~19 歳・成人別)

(%)

		調査年度	週に3日以上 (年151日以上)	週に1~2日 (年51~150日)	月に1~3日 (年12~50日)	3か月に1~2日 (年4~11日)	年に1~3日	行っていない	分からない
全体	7-19 歳[N=950]	2015	14.0	17.5	10.8	4.7	4.3	41.9	6.7
	7-19 歳[N=710]	2013	10.0	20.7	14.1	4.1	6.3	38.6	6.2
	成人[N=5,499]	2015	9.3	9.9	8.0	3.0	4.0	60.2	5.7
	成人[N=4,671]	2013	8.5	9.7	8.9	4.1	5.0	58.2	5.5
肢体不自由(車椅子必要)	7-19 歳[N=49]	2015	4.1	6.1	10.2	4.1	0.0	71.4	4.1
	7-19 歳[N=58]	2013	3.4	8.6	19.0	1.7	5.2	55.2	6.9
	成人[N=606]	2015	5.4	4.8	6.8	1.3	1.7	76.7	3.3
	成人[N=572]	2013	6.1	5.9	4.9	3.7	3.8	72.2	3.3
肢体不自由(車椅子不要)	7-19 歳[N=108]	2015	11.1	9.3	5.6	0.9	0.9	67.6	4.6
	7-19 歳[N=78]	2013	3.8	15.4	7.7	1.3	0.0	64.1	7.7
	成人[N=1,528]	2015	7.7	8.8	6.2	3.2	3.7	66.0	4.5
	成人[N=1,185]	2013	7.0	9.4	7.3	3.1	4.3	63.5	5.4
視覚障害	7-19 歳[N=35]	2015	17.1	25.7	2.9	2.9	5.7	42.9	2.9
	7-19 歳[N=38]	2013	7.9	13.2	15.8	2.6	5.3	39.5	15.8
	成人[N=509]	2015	8.3	11.0	10.0	2.2	4.3	57.0	7.3
	成人[N=436]	2013	8.5	10.3	7.6	5.3	5.7	58.5	4.1
聴覚障害	7-19 歳[N=59]	2015	20.3	16.9	13.6	6.8	3.4	32.2	6.8
	7-19 歳[N=60]	2013	15.0	18.3	21.7	5.0	3.3	31.7	5.0
	成人[N=566]	2015	11.0	11.1	8.1	4.4	2.8	55.3	7.2
	成人[N=445]	2013	9.0	13.5	11.0	6.5	5.6	48.1	6.3
知的障害	7-19 歳[N=292]	2015	11.3	20.2	14.0	6.5	3.1	37.0	7.9
	7-19 歳[N=224]	2013	9.4	25.4	14.3	5.4	6.3	34.4	4.9
	成人[N=440]	2015	6.6	12.3	8.6	3.6	5.7	56.8	6.4
	成人[N=470]	2013	5.7	8.7	12.8	2.1	8.1	55.5	7.0
発達障害	7-19 歳[N=445]	2015	15.3	19.8	11.2	4.5	5.8	35.5	7.9
	7-19 歳[N=335]	2013	11.3	25.7	13.7	5.1	9.3	31.0	3.9
	成人[N=357]	2015	11.2	11.8	7.8	3.1	5.9	54.9	5.3
	成人[N=288]	2013	9.0	10.1	10.4	4.5	5.6	52.8	7.6
精神障害	7-19 歳[N=77]	2015	13.0	14.3	5.2	3.9	3.9	54.5	5.2
	7-19 歳[N=76]	2013	7.9	9.2	7.9	7.9	5.3	53.9	7.9
	成人[N=1,375]	2015	12.1	11.5	7.9	2.8	4.1	55.2	6.3
	成人[N=1,237]	2013	9.8	9.3	9.6	3.8	4.4	56.8	6.2
その他(音声・言語・そしゃく 機能障害や内部障害を含む)	7-19 歳[N=91]	2015	11.0	11.0	11.0	7.7	5.5	51.6	2.2
	7-19 歳[N=80]	2013	5.0	17.5	17.5	3.8	6.3	42.5	7.5
	成人[N=1,037]	2015	10.9	10.3	8.2	2.9	3.7	58.8	5.2
	成人[N=912]	2013	8.8	9.3	8.1	3.2	4.4	62.4	3.8
東京オリンピック・パラリンピックに関する世論 調査(平成 27 年 6 月)[N=1,873]	2015	19.6	20.8	21.1	9.1	6.2	22.6	0.6	
体力・スポーツに関する世論調査 (平成 25 年 1 月)[N=1,897]	2013	24.4	23.1	18.3	8.1	5.8	19.1	1.1	

注 1) 車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

注 2) 内閣府「東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査」(平成 27 年 6 月): 全国 20 歳以上の日本国籍を有する者が対象。

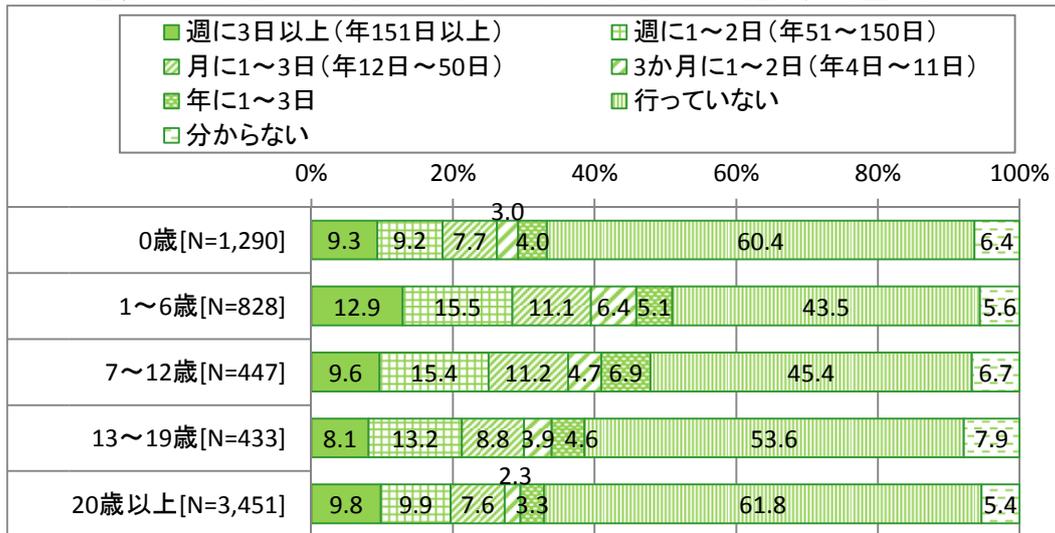
注 3) 2013 年度データ: 笹川スポーツ財団「健全者と障害者のスポーツ・レクリエーション活動連携推進事業(地域における障害者のスポーツ・レクリエーション活動に関する調査研究)」(平成 26 年 3 月)より。

注 4) 文部科学省「体力・スポーツに関する世論調査(平成 25 年 1 月): 全国 20 歳以上の日本国籍を有する者が対象。

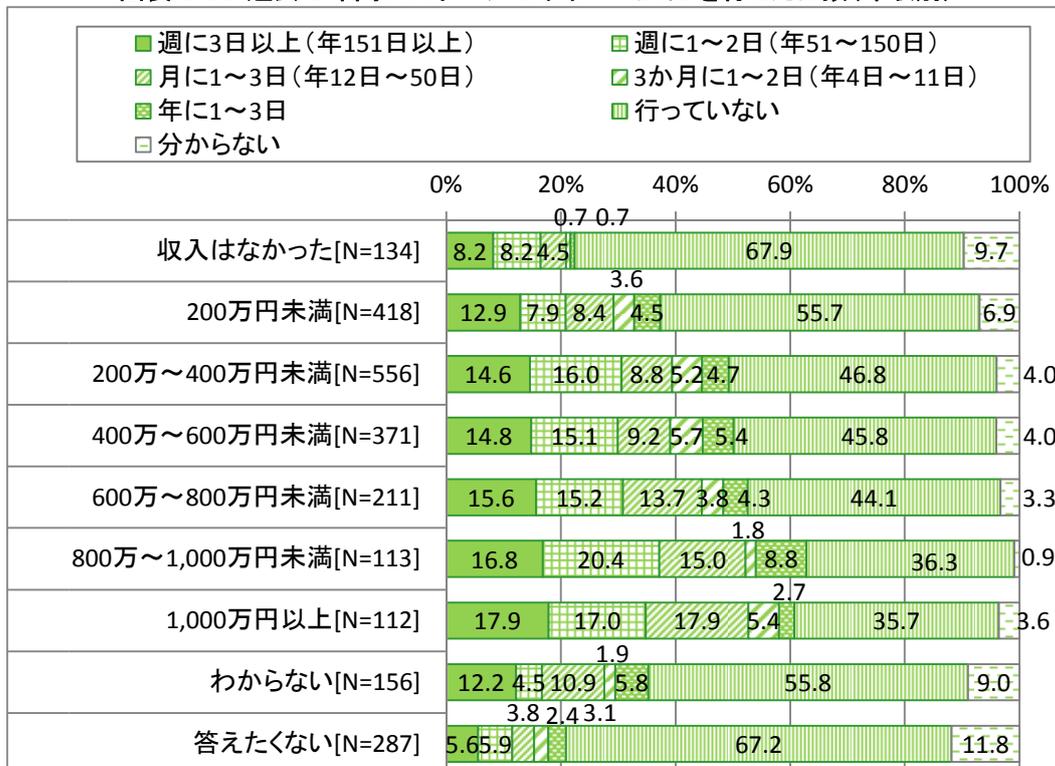
発生年齢別に見ると、週1回以上の実施者は「1～6歳」で28.4%、「7～12歳」では25.0%で、発生年齢が低いほど、実施率が高いことが分かる(図表1-18)。

年収別に見ると、週1回以上の実施者は「200万円未満」では約2割、200～800万円未満では約3割、800万円以上では3割を超えていた。年収が多くなるにつれて、スポーツ・レクリエーションを実施している割合は大きくなる(図表1-19)。笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」(2012)では、世帯年収と運動・スポーツの実施には優位な関係が認められ、世帯年収が高いほど、積極的にスポーツを実施していると判定しており、一般と同様の結果となった。

図表 1-18 過去1年間にスポーツ・レクリエーションを行った日数(発生年齢別)



図表 1-19 過去1年間にスポーツ・レクリエーションを行った日数(年収別)



以下の(3)～(7)の項目は、過去1年間に何らかのスポーツ・レクリエーションを行った2,743人を対象に調査を実施。

(3) 過去1年間に行ったスポーツ・レクリエーション

過去1年間にスポーツ・レクリエーションを「行った」と回答した人が、どのようなスポーツ・レクリエーションを行ったかについて、障害種別に上位種目と一人当たりの平均実施種目数をまとめた。7～19歳では、「水泳」「散歩(ぶらぶら歩き)」「ウォーキング」「体操(軽い体操、ラジオ体操など)」、成人では、「散歩(ぶらぶら歩き)」「ウォーキング」「体操(軽い体操、ラジオ体操など)」「水泳」の実施率が高かった。「水泳」は、7～19歳では、ほとんどの障害で最も実施率の高い種目となっている(図表1-20、図表1-21、図表1-22)。水泳は、指導方法やアプローチ方法に多様性があるが、指導者、サポートが充実している学齢期には積極的に実施される。卒業後は、指導者やサポート体制が充実した環境を見つけるのが難しく、成人では一人で実施できる「散歩(ぶらぶら歩き)」「ウォーキング」の実施が増える傾向にある。一人当たりの平均実施種目数については、障害による違いが見られる。全体では「発達障害」が3.2種目と最も多い。

発生前年齢別に見ると、「散歩(ぶらぶら歩き)」「ウォーキング」「体操(軽い体操、ラジオ体操など)」が上位を占める中で、「20歳以上」になると、筋力トレーニングやゴルフが上位に入ってくる(図表1-23)。

図表 1-20 過去 1 年間に行ったスポーツ・レクリエーション(障害種別・全体:N=2,743)(複数回答) (%)

	(車 肢 障 害 不 目 要 由)		(視 覚 障 害)		聴 覚 障 害		知 的 障 害		発 達 障 害		精 神 障 害		内 部 的 障 害 (音 声 を 含 む 言 語 的 な 障 害)
	N=155	N=555	N=239	N=293	N=374	N=448	N=651	N=471					
1位	散歩(ふらふら歩き)	散歩(ふらふら歩き)	散歩(ふらふら歩き)	散歩(ふらふら歩き)	散歩(ふらふら歩き)	散歩(ふらふら歩き)	散歩(ふらふら歩き)	散歩(ふらふら歩き)	散歩(ふらふら歩き)	散歩(ふらふら歩き)	散歩(ふらふら歩き)	散歩(ふらふら歩き)	散歩(ふらふら歩き)
2位	キャッチボール	ウォーキング	ウォーキング	ウォーキング	ウォーキング	ウォーキング	ウォーキング	ウォーキング	ウォーキング	ウォーキング	ウォーキング	ウォーキング	ウォーキング
3位	ウォーキング	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳
4位	水中歩行	体操(軽い体操、ラジ オ体操など)	体操(軽い体操、ラジ オ体操など)	ジョギング・ランニング	体操(軽い体操、ラジ オ体操など)	体操(軽い体操、ラジ オ体操など)	体操(軽い体操、ラジ オ体操など)	体操(軽い体操、ラジ オ体操など)	体操(軽い体操、ラジ オ体操など)	体操(軽い体操、ラジ オ体操など)	体操(軽い体操、ラジ オ体操など)	体操(軽い体操、ラジ オ体操など)	体操(軽い体操、ラジ オ体操など)
5位	ふうせんハレー	体操(軽い体操、ラジ オ体操など)	ジョギング・ランニング	体操(軽い体操、ラジ オ体操など)	ジョギング・ランニング	ジョギング・ランニング	ジョギング・ランニング	ジョギング・ランニング	ジョギング・ランニング	ジョギング・ランニング	ジョギング・ランニング	ジョギング・ランニング	ジョギング・ランニング
6位	野球	7.2 海水浴	海水浴	野球	8.5 水中歩行	11.2 ジョギング・ランニング	13.4 なわとび	14.1 ジョギング・ランニング	13.4 筋力トレーニング(ダンベル・自重のトレーニング)	8.4 水中歩行	7.8 ポウリング	7.1 ゴルフ(コース)	8.4 水中歩行
7位	体操(軽い体操、ラジ オ体操など)	6.8 キャッチボール	キャッチボール	キャッチボール	9.6 キャッチボール	7.5 海水浴	10.2 海水浴	10.7 水中歩行	10.2 海水浴	10.7 水中歩行	7.8 ポウリング	7.1 ゴルフ(コース)	7.8 ポウリング
8位	サッカー	5.8 筋力トレーニング(ダンベル・自重のトレーニング)	7.9 野球	ハイキング	ハイキング	ハイキング	6.8 ポウリング	9.9 サッカー	9.9 サッカー	10.5 ヨーガ	7.1 ゴルフ(コース)	7.1 ゴルフ(コース)	7.1 ゴルフ(コース)
9位	ジョギング・ランニング	5.9 ハイキング	ハイキング	水中歩行	水中歩行	水中歩行	なわとび	8.8 ドッジボール	8.8 ドッジボール	8.9 卓球	8.9 卓球	8.9 卓球	8.9 卓球
10位	水泳	5.8 サイクリング	サイクリング	海水浴	海水浴	海水浴	なわとび	8.6 キャッチボール	8.6 キャッチボール	8.5 サッカー	8.5 サッカー	8.5 サッカー	8.5 サッカー
11位	海水浴	5.4 サッカー	サッカー	ゴルフ(コース)	ゴルフ(コース)	ゴルフ(コース)	キャッチボール	6.1 卓球	6.1 卓球	7.6 サイクリング	7.6 サイクリング	6.5 キャッチボール	6.5 キャッチボール
12位	ソフトボール	5.2 ゴルフ(練習場)	キャンプ	ポウリング	ポウリング	ポウリング	バスケットボール	7.4 野球	7.4 野球	7.4 野球	7.4 野球	6.3 海水浴	6.3 海水浴
13位	ゴルフ(コース)	5.2 ハイキング	ソフトボール	マラソン、駅伝などのロードレース	マラソン、駅伝などのロードレース	マラソン、駅伝などのロードレース	ハイキング	5.6 ポウリング	5.6 ポウリング	5.8 ポウリング	5.8 ポウリング	5.8 ポウリング	5.8 ポウリング
14位	ゴルフ(練習場)	4.7 ソフトボール	ゴルフ(練習場)	ゴルフ(練習場)	ゴルフ(練習場)	ゴルフ(練習場)	スキー	7.1 キャッチボール	7.1 キャッチボール	7.1 キャッチボール	7.1 キャッチボール	7.1 キャッチボール	7.1 キャッチボール
15位	筋力トレーニング(マシ ントレーニング)	4.5 野球	卓球	バドミントン	バドミントン	バドミントン	つな引き	5.1 海水浴	5.1 海水浴	5.1 海水浴	5.1 海水浴	5.1 海水浴	5.1 サイクリング
	ポッチャ	釣り	釣り	キャンプ	キャンプ	キャンプ	マラソン、駅伝などのロードレース	登山	登山	登山	登山	登山	登山
平均実施 項目数	2.0	2.2	2.7	2.7	2.7	2.7	2.9	3.2	2.6	2.5	2.5	2.5	2.5

注)車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

図表 1-21 過去 1 年間に行ったスポーツ・レクリエーション(障害種別・7~19 歳:N=552)(複数回答) (%)

順位	(車椅子使用者)		(車椅子使用者でない)		視覚障害		聴覚障害		知的障害		発達障害		精神障害		その他		スポーツ(参考)		合計
	N=14	N=35	N=20	N=40	N=84	N=287	N=84	N=287	N=84	N=35	N=44	N=2583	N=44	N=2583	N=44	N=2583	N=1848		
1位	散歩(ぶらぶら歩き)	ウォーキング	水泳	水泳	30.0	42.4	44.6	28.6	散歩(ぶらぶら歩き)	31.8	41.1	サッカー	31.1						
2位	水中歩行	水泳	25.7	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	22.5	散歩(ぶらぶら歩き)	29.3	20.0	散歩(ぶらぶら歩き)	27.3	水泳(スイミング)	34.5	おにごっこ	30.0					
3位	海水浴	散歩(ぶらぶら歩き)	22.9	なわとび	30.0	キャッチボール	17.5	なわとび	21.3	キャッチボール	20.5	サッカー	34.3	ジョギング・ランニング	26.4				
4位	キャッチボール	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	17.1	サッカー	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	21.2	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	17.1	つな引き	18.8	野球	20.5	ドッジボール	25.9					
5位	水泳	ソフトボール	14.3	卓球	14.3	ソフトボール	14.3	なわとび	14.6	なわとび	15.9	なわとび(運なわとびを含む)	31.2	水泳(スイミング)	25.3				
6位	ふうせん/ハレー	ジョギング・ランニング	14.3	ジョギング・ランニング	17.9	ジョギング・ランニング	14.6	なわとび	14.6	なわとび	15.9	なわとび(運なわとびを含む)	31.2	水泳(スイミング)	25.3				
7位	ポッチャ	キャッチボール	25.0	ウォーキング	15.0	なわとび	14.3	ウォーキング	14.3	サッカー	13.6	バスケットボール	23.1						
8位	野球	ハレーボール	11.4	散歩(ぶらぶら歩き)	11.4	散歩(ぶらぶら歩き)	11.4	水中歩行	13.0	卓球	11.4	バスケットボール	22.3						
9位	サッカー	海水浴	陸上競技	キャンプ	キャンプ	キャンプ	12.5	ドッジボール	12.5	ドッジボール	10.1	ウォーキング	20.7						
10位	ソフトハレーボール	ソフトテニス(軟式テニス)	海水浴	野球	野球	野球	9.8	キャッチボール	9.8	キャッチボール	8.7	スキー	20.2						
11位	ボウリング	卓球	8.6	キャッチボール	12.5	ドッジボール	8.7	スキー	8.7	スキー	9.8	ジョギング・ランニング	18.9						
12位	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	なわとび	20.0	バスケットボール	バスケットボール	バスケットボール	8.2	卓球	9.4	ダンス(社交ダンス、フォークダンス、フラダンスなど)	8.6	ダンス(社交ダンス、フォークダンス、フラダンスなど)	18.7						
13位	キャンプ	釣り	釣りに	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	10.0	卓球	7.1	卓球	8.7	つな引き	8.7	つな引き	18.5						
14位	登山	野球	5.7	ソフトボール	15.0	ソフトボール	15.0	卓球	7.1	ドッジボール	5.7	ドッジボール	17.2						
15位				バスケットボール		バスケットボール		バスケットボール		バスケットボール		バスケットボール	16.6						
平均乗乗項目数	1.9	2.9	5.1	3.6	3.4	3.6	2.5	3.6	3.6	2.5	3.6	3.6							

注 1) 車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

注 2) (参考) スポーツライフに関する調査 2013 (*)は、「4~9 歳」と「10代」のスポーツライフに関する調査より 7~19 歳のデータを使用した。

図表 1-22 過去 1 年間に行ったスポーツ・レクリエーション(障害種別・成人: N=2,191) (複数回答) (%)

順位	活動内容	N=141		N=219		N=253		N=180		N=161		N=616		N=427		N=2,000		その他 顔の 腫れ 髪 化粧 金 髪 め る 話 の 話 を 聞 く こ と	ライ ス の 参 考 年 齢 層 (1 0 代 の 参 考 年 齢 層 を 参 照 し て)	東 京 都 民 の 参 照 年 齢 層 (1 0 代 の 参 照 年 齢 層 を 参 照 し て)	
		(車 椅子 必 要 な 人)	(車 椅子 不 自 由 な 人)	視 覚 障 害	聴 覚 障 害	知 的 障 害	発 達 障 害	精 神 障 害	内 そ の 他 の 障 害	散 歩 (ふ ら ふ ら 歩 き)	ウ ォ ー キ ン グ	散 歩 (ふ ら ふ ら 歩 き)	ウ ォ ー キ ン グ	散 歩 (ふ ら ふ ら 歩 き)	ウ ォ ー キ ン グ	散 歩 (ふ ら ふ ら 歩 き)	ウ ォ ー キ ン グ				散 歩 (ふ ら ふ ら 歩 き)
1位	散歩(ふらふら歩き)	22.0	41.0	37.9	38.4	45.8	39.8	45.0	46.8	46.8	33.0	33.0	33.0	33.0	33.0	33.0	33.0	33.0	33.0	33.0	50.8
2位	キャッチボール	14.9	26.5	33.8	31.2	24.7	28.6	24.7	24.7	28.6	38.0	38.0	38.0	38.0	38.0	38.0	38.0	38.0	38.0	38.0	28.9
3位	ウォーキング	14.9	13.3	12.8	10.7	24.2	18.0	18.0	18.0	18.0	14.4	14.4	14.4	14.4	14.4	14.4	14.4	14.4	14.4	14.4	17.0
4位	水中歩行	8.5	12.3	10.5	9.9	11.6	14.9	14.9	14.9	14.9	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0	16.9
5位	ふうせんハレー	7.8	10.6	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.0
6位	野球	7.1	7.5	7.9	7.9	7.9	7.9	7.9	7.9	7.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	10.5
7位	体操(軽い体操、ラジ オ体操など)	6.4	6.9	8.7	7.5	5.8	7.5	5.8	5.8	7.5	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	10.3
8位	サッカー	5.7	6.5	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5	6.8	6.8	6.8	6.8	6.8	6.8	6.8	6.8	6.8	6.8	9.7
9位	ジョギング・ランニング	5.7	6.2	7.8	7.1	7.1	7.1	7.1	7.1	7.1	6.8	6.8	6.8	6.8	6.8	6.8	6.8	6.8	6.8	6.8	9.5
10位	ソフトボール	5.0	5.8	7.3	6.7	6.7	6.7	6.7	6.7	6.7	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	9.7
11位	ゴルフ(コース)	5.0	5.6	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	6.2	6.2	6.2	6.2	6.2	6.2	6.2	6.2	6.2	6.2	7.7
12位	ゴルフ(練習場)	5.0	5.2	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	6.2	6.2	6.2	6.2	6.2	6.2	6.2	6.2	6.2	6.2	7.2
13位	ジョギング・ランニング	4.3	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	7.2
14位	水泳	4.3	4.6	4.1	5.5	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	6.2
15位	卓球	3.5	4.4	5.1	5.1	5.1	5.1	5.1	5.1	5.1	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	5.8
平均年齢 項目別		2.0	2.2	2.5	2.5	2.4	2.5	2.6	2.4	2.5	2.6	2.6	2.6	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	

注1) 車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

注2) 笹川スポーツ財団「スポーツライフ・データ」(2014) : 成人を対象とした全国調査。

図表 1-23 過去 1 年間に行ったスポーツ・レクリエーション(発生年齢別)

(%)

	0 歳		1～19 歳		20 歳以上	
	N=511		N=913		N=1,319	
1 位	散歩(ぶらぶら歩き)	34.6	散歩(ぶらぶら歩き)	28.3	散歩(ぶらぶら歩き)	44.5
2 位	水泳	26.2	水泳	23.3	ウォーキング	35.3
3 位	ウォーキング	23.9	ウォーキング	18.1	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	12.6
4 位	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	14.5	ジョギング・ランニング	11.7	水泳	11.5
5 位	ジョギング・ランニング	12.3	キャッチボール	10.7	水中歩行	8.7
6 位	海水浴	9.0	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	10.5	ジョギング・ランニング	8.2
7 位	ボウリング	8.4	サッカー	9.3	筋力トレーニング(ダンベル・自重のトレーニング)	7.0
8 位	キャッチボール	8.0	なわとび	9.2	筋力トレーニング(マシントレーニング)	6.8
9 位	水中歩行		海水浴		ゴルフ(コース)	5.8
10 位	ハイキング	7.2	野球	8.2	ハイキング	5.6
11 位	なわとび	5.9	ソフトボール	7.3	ゴルフ(練習場)	5.4
12 位	サイクリング	5.7	ドッジボール	6.8	サイクリング	5.4
13 位	卓球	5.5	ボウリング	6.6	釣り	4.9
14 位	サッカー	4.9	スキー	6.1	キャッチボール	4.7
15 位	野球	4.7	卓球	6.0	ヨーガ	4.6
平均実施項目数	2.7		2.7		2.4	

(4) スポーツ・レクリエーションの実施回数

過去 1 年間に行ったスポーツ・レクリエーション種目の年平均実施回数を尋ねたところ、「筋力トレーニング(ダンベル・自重のトレーニング)」「体操(軽い体操、ラジオ体操など)」「ウォーキング」「散歩(ぶらぶら歩き)」「ジョギング・ランニング」が多かった(図表 1-24)。

障害種別に見ると、全障害で「体操(軽い体操、ラジオ体操など)」「ウォーキング」「散歩(ぶらぶら歩き)」「ジョギング・ランニング」の年平均実施回数が多く、特に「肢体不自由(車椅子不要)」「精神障害」では、筋力トレーニング、「精神障害」では、「ヨガ」が多かった。(図表 1-25)。

図表 1-24 スポーツ・レクリエーション種目(実施率上位 30 種目)の年平均実施回数
(回)

種目名	年平均 実施回数
散歩(ぶらぶら歩き)[N=983]	120.1
ウォーキング[N=728]	129.6
水泳[N=456]	44.6
体操(軽い体操、ラジオ体操など)[N=311]	140.9
ジョギング・ランニング[N=253]	103.6
水中歩行[N=183]	54.4
キャッチボール[N=165]	31.1
海水浴[N=122]	6.0
ボウリング[N=126]	8.4
野球[N=136]	48.8
ハイキング[N=120]	11.6
筋力トレーニング(マシントレーニング)[N=128]	95.3
サッカー[N=120]	38.9
筋力トレーニング(ダンベル・自重のトレーニング)[N=130]	157.2
卓球[N=115]	51.4
サイクリング[N=112]	72.1
釣り[N=102]	19.4
なわとび[N=89]	55.5
ソフトボール[N=102]	31.4
スキー[N=77]	4.5
バドミントン[N=87]	38.2
ゴルフ(コース)[N=90]	14.6
キャンプ[N=57]	2.5
ゴルフ(練習場)[N=87]	32.1
登山[N=73]	7.0
ヨガ[N=88]	93.3
バスケットボール[N=57]	53.6
ドッジボール[N=61]	48.8
テニス(硬式テニス)[N=67]	38.1
マラソン、駅伝などのロードレース[N=45]	41.1

図表 1-25 スポーツ・レクリエーション種目(実施率上位種目)の年平均実施回数(障害種別・全体:N=2,743)

(回)

	(車椅子 必要)	(車椅子 不要)	視覚障害		聴覚障害		知的障害		発達障害		精神障害		内 部 の 障 害 (音 声 を 含 め る 語 や)
			N=239	N=239	N=293	N=293	N=374	N=374	N=448	N=448	N=651	N=651	
1位	111.7	124.0	116.1	145.8	107.8	38.3	115.6	122.0	122.0	115.6	122.0	122.0	122.0
	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)
2位	28.3	124.4	131.0	149.2	149.2	35.5	108.1	125.0	125.0	108.1	125.0	125.0	125.0
	ウオーキング	ウオーキング	ウオーキング	ウオーキング	ウオーキング	ウオーキング	ウオーキング	ウオーキング	ウオーキング	ウオーキング	ウオーキング	ウオーキング	ウオーキング
3位	128.2	46.8	64.4	24.6	105.6	57.4	147.1	150.6	150.6	57.4	150.6	150.6	150.6
	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳
4位	38.9	73.6	115.2	135.9	135.9	113.3	122.7	39.0	39.0	122.7	39.0	39.0	39.0
	水中歩行	体操(軽い体操、ラジ オ体操など)											
5位	43.2	130.0	84.9	177.4	102.9	63.2	97.4	13.4	13.4	63.2	13.4	13.4	13.4
	ふうせんくレー	ジョギング・ランニング											
6位	43.7	90.2	8.5	72.0	26.0	104.2	142.8	49.8	49.8	104.2	49.8	49.8	49.8
	野球	海水浴	海水浴	野球	海水浴								
7位	199.6	14.5	21.3	33.2	4.9	7.0	62.8	10.9	10.9	7.0	62.8	10.9	10.9
	体操(軽い体操、ラジ オ体操など)	キャッチボール											
8位	28.4	168.2	30.9	10.1	7.5	49.6	109.9	19.4	19.4	49.6	109.9	19.4	19.4
	サッカー	野球	野球	ハイキング									
9位	120.6	15.1	21.2	66.9	57.5	76.1	38.8	87.4	87.4	76.1	38.8	87.4	87.4
	ジョギング・ランニング	ゴルフ(コース)	ハイキング	水中歩行	ドッジボール								
10位	26.9	108.7	32.6	8.8	28.0	46.6	86.9	24.4	24.4	46.6	86.9	24.4	24.4
	水泳	サイクリング	サイクリング	サッカー									
11位	16.1	20.4	37.1	10.2	35.8	80.3	82.7	20.5	20.5	80.3	82.7	20.5	20.5
	海水浴	釣り	サッカー	ゴルフ(コース)	卓球								
12位	74.8	47.8	1.4	32.8	24.8	26.9	59.3	11.5	11.5	26.9	59.3	11.5	11.5
	ソフトボール	キャンプ	キャンプ	バスケットボール									
13位	4.7	8.0	42.2	32.9	26.6	4.1	5.7	91.9	91.9	4.1	5.7	91.9	91.9
	ゴルフ(コース)	ハイキング	ソフトボール	マラソン、駅伝などの ロードレース									
14位	15.3	35.1	24.5	33.4	3.2	2.5	32.1	32.1	32.1	2.5	32.1	32.1	32.1
	ゴルフ(練習場)	ソフトボール	ゴルフ(練習場)	スキー									
15位	88.0	53.7	51.7	69.8	2.0	3.8	15.9	86.4	86.4	3.8	15.9	86.4	86.4
	筋力トレーニング(マシ ントレーニング)	野球	卓球	つな引き									
	ボッチャ	12.7	釣りに	14.7	2.1	10.2	10.2	10.2	10.2	2.1	10.2	10.2	10.2
				マラソン、駅伝などの ロードレース									
				スキー									
				5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5

注)車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

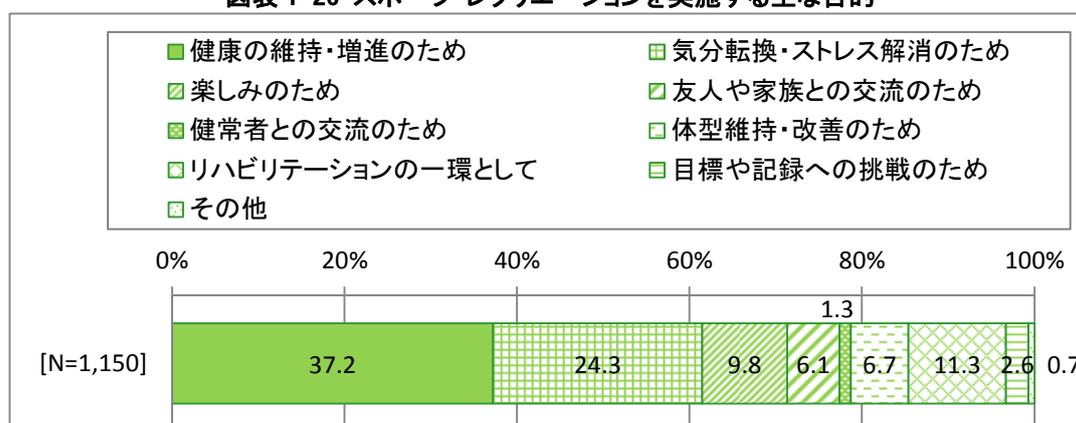
(5) スポーツ・レクリエーションを実施する主な目的

スポーツ・レクリエーションを実施する主な目的については、「健康の維持・増進のため」(37.2%)が最も多く、次いで「気分転換・ストレス解消のため」(24.3%)、「リハビリテーションの一環として」(11.3%)であった(図表 1-26)。文部科学省「体力・スポーツに関する世論調査」(平成 25 年 1 月)では、「健康・体力づくりのため」「楽しみ、気晴らしとして」との回答が多く、本調査と同様の傾向を示した。

障害種別で見ると、「健康の維持・増進のため」が全障害において 3 割以上、「気分転換・ストレス解消のため」が全障害で約 2 割と、障害による違いは見られなかったが、肢体不自由では、「リハビリテーションの一環として」との約 2 割とほかの障害に比べて高く、知的障害では「健常者との交流のため」が 11.1%とほかの障害と比べて高かった(図表 1-27)。

男女別に見ると、「健康維持・増進のため」が男性で高く、「気分転換・ストレス解消のため」が女性で高くなった(図表 1-28)。

図表 1-26 スポーツ・レクリエーションを実施する主な目的



注) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者の場合に限定した。

図表 1-27 スポーツ・レクリエーションを実施する主な目的(障害種別)

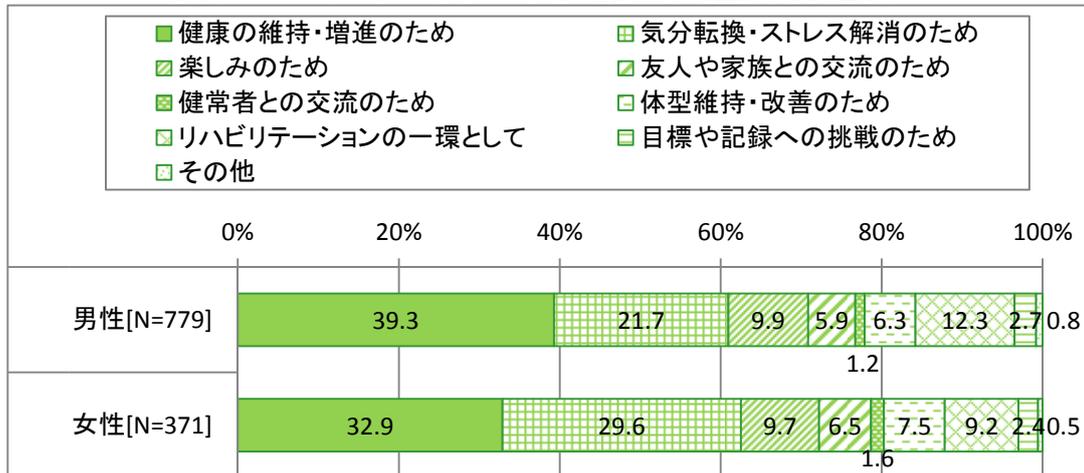
(%)

	肢体不自由(車椅子必要)	肢体不自由(車椅子不要)	視覚障害	聴覚障害	知的障害	発達障害	精神障害	その他(音声・言語・そしゃく機能障害や内部障害を含む)
	N=51	N=266	N=114	N=117	N=18	N=82	N=411	N=227
健康の維持・増進のため	31.4	33.8	34.2	39.3	33.3	35.4	39.7	39.6
気分転換・ストレス解消のため	21.6	17.3	28.9	21.4	27.8	22.0	28.7	22.0
楽しみのため	13.7	7.5	9.6	16.2	16.7	15.9	6.1	11.5
友人や家族との交流のため	5.9	7.1	8.8	4.3	0.0	3.7	4.4	9.7
健常者との交流のため	2.0	1.1	1.8	1.7	11.1	1.2	0.2	1.3
体型維持・改善のため	2.0	5.6	6.1	3.4	5.6	7.3	9.7	2.6
リハビリテーションの一環として	19.6	24.8	7.9	7.7	0.0	12.2	8.5	9.3
目標や記録への挑戦のため	3.9	1.9	1.8	5.1	5.6	2.4	1.7	2.6
その他	0.0	0.8	0.9	0.9	0.0	0.0	1.0	1.3

注 1) 車椅子必要／不要とは、日常生活で車椅子を必要とする／必要としないこと。

注 2) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

図表 1-28 スポーツ・レクリエーションを実施する主な目的(性別)



注) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者の場合に限定した。

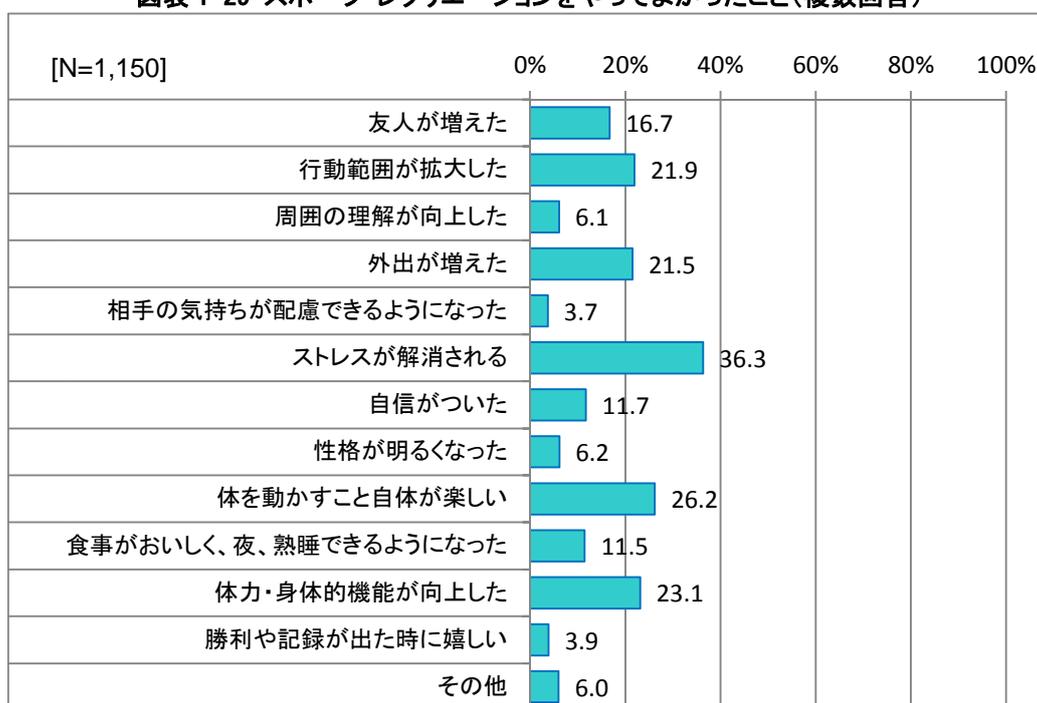
(6) スポーツ・レクリエーションをやってよかったこと

スポーツ・レクリエーションをやってよかったことについては、「ストレスが解消される」(36.3%)が最も多く、次いで「体を動かすこと自体が楽しい」(26.2%)、「体力・身体的機能が向上した」(23.1%)であった(図表 1-29)。

障害種別に見ると、「肢体不自由(車椅子必要)」では「友人が増えた」、「肢体不自由(車椅子不要)」では「ストレスが解消される」「体力・身体的機能が向上した」、「視覚障害」では「ストレスが解消される」「行動範囲が拡大した」、「聴覚障害」「精神障害」では「ストレスが解消される」が高かった(図表 1-30)。

また、障害の程度を重度に絞り、障害種別に見ると、「肢体不自由(車椅子必要)」では「友人が増えた」「行動範囲が拡大した」「周囲の理解が向上した」「外出が増えた」、「視覚障害」「聴覚障害」では「友人が増えた」「行動範囲が拡大した」の割合が高くなり、障害の程度による違いが見られた(図表 1-31)。

図表 1-29 スポーツ・レクリエーションをやってよかったこと(複数回答)



注)スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者の場合に限定した。

図表 1-30 スポーツ・レクリエーションをやってよかったこと(障害種別)

(%)

	肢体不自由(車椅子必要)	肢体不自由(車椅子不要)	視覚障害	聴覚障害	知的障害	発達障害	精神障害	その他(音声・言語・そしゃく機能障害や内部障害を含む)
	N=51	N=266	N=114	N=117	N=18	N=82	N=411	N=227
友人が増えた	31.4	20.7	22.8	16.2	44.4	17.1	11.9	13.7
行動範囲が拡大した	21.6	21.1	27.2	22.2	33.3	22.0	23.6	23.3
周囲の理解が向上した	9.8	5.3	10.5	5.1	5.6	3.7	5.1	7.0
外出が増えた	27.5	21.4	24.6	14.5	22.2	17.1	24.8	18.9
相手の気持ちが配慮できるようになった	5.9	4.1	5.3	5.1	11.1	2.4	2.7	3.1
ストレスが解消される	15.7	28.9	35.1	41.9	27.8	36.6	43.1	38.8
自信がついた	5.9	12.0	10.5	9.4	11.1	12.2	12.9	13.2
性格が明るくなった	9.8	4.9	7.0	4.3	11.1	7.3	7.1	4.0
体を動かすこと自体が楽しい	9.8	25.6	23.7	30.8	33.3	24.4	26.8	29.5
食事がおいしく、夜、熟睡できるようになった	5.9	10.2	14.9	8.5	5.6	12.2	13.6	12.3
体力・身体的機能が向上した	9.8	27.4	15.8	20.5	11.1	20.7	24.8	24.7
勝利や記録が出た時に嬉しい	2.0	4.9	2.6	6.0	5.6	6.1	3.6	1.8
その他	2.0	8.3	1.8	3.4	11.1	6.1	8.0	3.5

注 1) 車椅子必要／不要とは、日常生活で車椅子を必要とする／必要としないこと。

注 2) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

図表 1-31 スポーツ・レクリエーションをやってよかったこと(障害種別)【重度】

(%)

	肢体不自由(車椅子必要)	肢体不自由(車椅子不要)	視覚障害	聴覚障害	知的障害	発達障害	精神障害	その他(音声・言語・そしゃく機能障害や内部障害を含む)
	N=28	N=66	N=33	N=28	N=5	N=31	N=167	N=92
友人が増えた	35.7	16.7	36.4	28.6	60.0	12.9	11.4	9.8
行動範囲が拡大した	32.1	19.7	27.3	32.1	80.0	38.7	26.3	21.7
周囲の理解が向上した	14.3	3.0	12.1	10.7	0.0	6.5	6.0	8.7
外出が増えた	35.7	22.7	12.1	14.3	20.0	22.6	29.9	20.7
相手の気持ちが配慮できるようになった	3.6	4.5	3.0	3.6	20.0	0.0	2.4	3.3
ストレスが解消される	17.9	24.2	18.2	46.4	0.0	29.0	43.1	40.2
自信がついた	3.6	9.1	12.1	7.1	0.0	9.7	13.8	16.3
性格が明るくなった	3.6	1.5	3.0	3.6	0.0	12.9	9.0	5.4
体を動かすこと自体が楽しい	10.7	18.2	18.2	32.1	60.0	16.1	25.7	26.1
食事がおいしく、夜、熟睡できるようになった	3.6	7.6	15.2	3.6	20.0	16.1	15.6	17.4
体力・身体的機能が向上した	14.3	31.8	18.2	21.4	0.0	12.9	23.4	30.4
勝利や記録が出た時に嬉しい	0.0	4.5	6.1	7.1	20.0	0.0	3.0	2.2
その他	0.0	12.1	6.1	7.1	0.0	6.5	9.0	2.2

注 1) 車椅子必要／不要とは、日常生活で車椅子を必要とする／必要としないこと。

注 2) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

(7) スポーツ・レクリエーションを行っている施設

スポーツ・レクリエーションを行っている施設について尋ねたところ、過去1年間に利用したことがある施設、日常的に利用している施設ともに「公共スポーツ施設の体育館」「公共スポーツ施設のプール(屋内)」「公共スポーツ施設のグラウンド」が多かった(図表 1-32)。「その他」で多かったのは、「自宅・自宅周辺」「公園」「公道・道路」などであった。特別支援学校は、公共スポーツ施設や公立小中学校の施設と比べて利用率が低く、活用が進んでいないことが分かる。

図表 1-32 スポーツ・レクリエーションを行っている施設

(%)

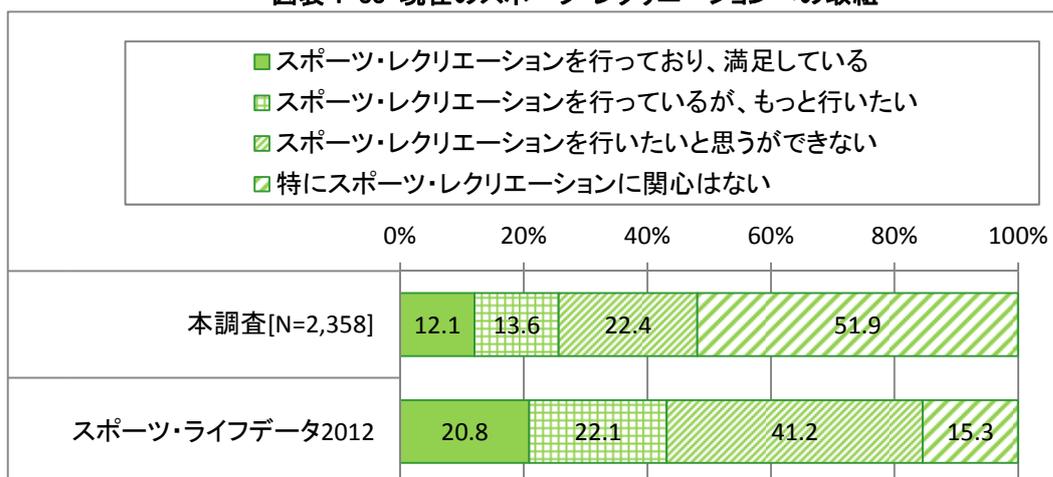
施設		週1回以上行っている人	
		N=1,357	
		日常的な利用はないが、過去1年間には利用したことがある	日常的に利用している
公共スポーツ施設	体育館	20.2	6.3
	グラウンド	12.1	9.8
	プール(屋外)	8.8	2.3
	プール(屋内)	13.2	7.2
	トレーニング室	5.8	4.5
	その他	0.7	1.1
民間スポーツ施設	体育館	4.3	2.7
	グラウンド	4.9	2.9
	プール(屋外)	3.4	1.1
	プール(屋内)	5.2	5.9
	トレーニング室	4.4	5.5
	その他	0.7	1.2
公立小中学校	体育館	5.3	6.3
	グラウンド	5.2	5.7
	プール	4.3	2.4
	その他	0.1	0.4
障害者スポーツ専用・優先施設	体育館	2.9	1.9
	小体育館(卓球室、訓練室等)	2.1	0.7
	グラウンド	1.8	0.5
	プール	2.5	1.1
	その他	0.0	0.1
福祉施設・高齢者施設	体育館	2.1	1.3
	小体育館(卓球室、訓練室等)	2.1	1.5
	プール	1.5	0.4
	その他	0.4	0.6
特別支援学校	体育館	2.3	2.9
	小体育館(卓球室、訓練室等)	1.5	1.7
	グラウンド	2.4	2.7
	プール	2.0	1.8
	その他	0.1	0.0
その他		11.7	20.6

(8) 現在のスポーツ・レクリエーションへの取組

現在のスポーツ・レクリエーションへの取組については、「特にスポーツ・レクリエーションに関心はない」(51.9%)が最も多く、次いで「スポーツ・レクリエーションを行いたいと思うができない」(22.4%)であった(図表 1-33)。「スポーツ・レクリエーションを行っており、満足している」のは 12.1%であった。笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」(2012)と比較すると、「特にスポーツ・レクリエーションに関心はない」無関心層が多かった。

過去1年間のスポーツ・レクリエーションの実施有無別に見ると、非実施者において、「特にスポーツ・レクリエーションに関心はない」無関心層が77.0%となり、実施者の約3倍の無関心層がいた(図表 1-34)。

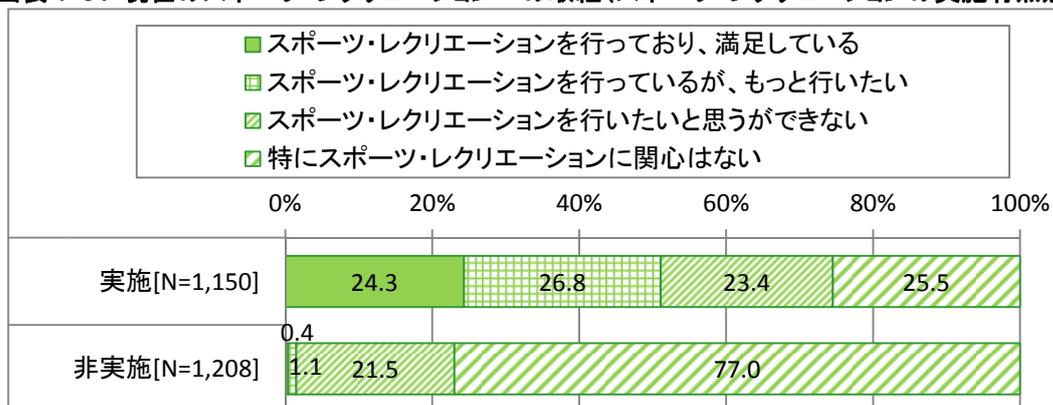
図表 1-33 現在のスポーツ・レクリエーションへの取組



注 1) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

注 2) 笹川スポーツ財団「スポーツライフ・データ」(2012) : 成人を対象とした全国調査。

図表 1-34 現在のスポーツ・レクリエーションへの取組(スポーツ・レクリエーションの実施有無別)



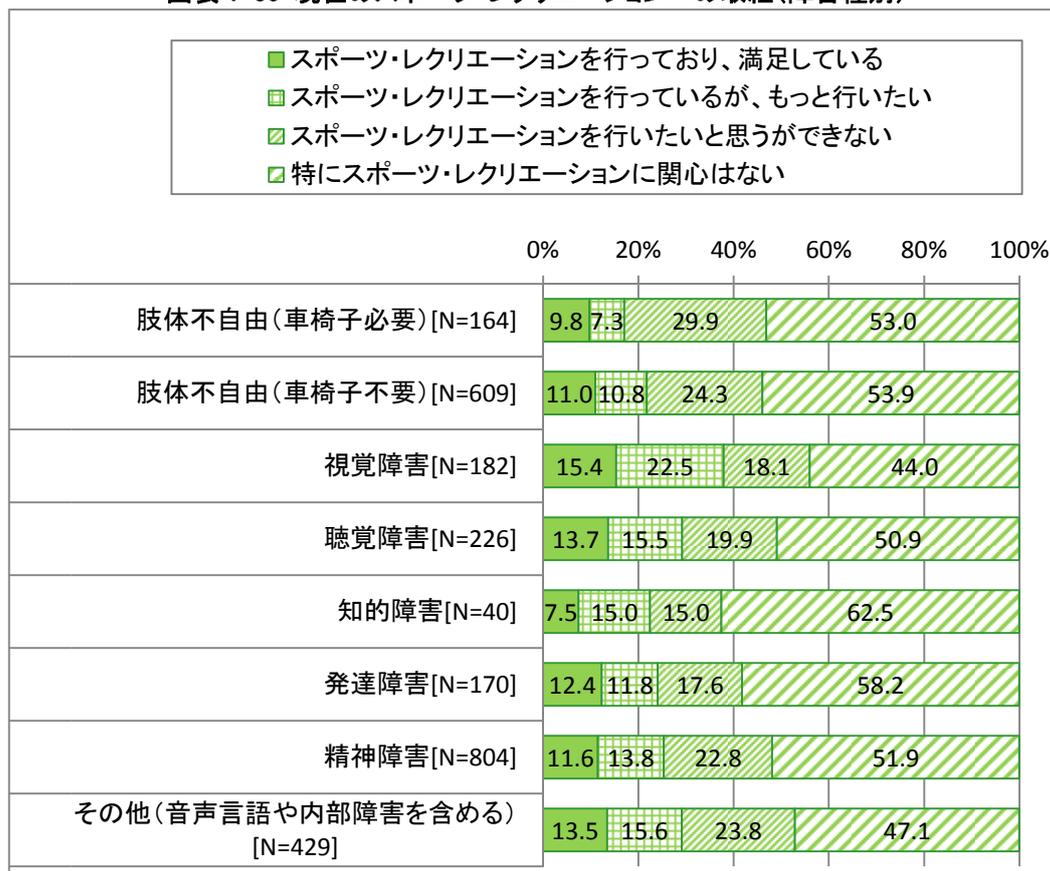
注 1) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

注 2) 非実施者の中に、「スポーツ・レクリエーションを行っており、満足している」「スポーツを行っているが、もっと行いたい」と回答した人がある。矛盾した回答であるが、図表 1-42 との比較の参考として、そのまま掲載した。

障害種別に見ると、「肢体不自由(車椅子必要)」では「スポーツ・レクリエーションを行いたいと思うができない」が約3割とほかの障害に比べて高く、「知的障害」「発達障害」では、「特にスポーツ・レクリエーションに関心はない」の割合が高かった(図表 1-35)。

障害の程度を重度に絞り、障害種別に見ると、全障害において「特にスポーツ・レクリエーションに関心はない」無関心層の割合が低くなり、肢体不自由においては「スポーツ・レクリエーションを行いたいと思うができない」が3割を超えた。重度障害者ほど、スポーツ・レクリエーションへの関心が高く、行いたいと思っているが行えない実態が分かった(図表 1-36)。

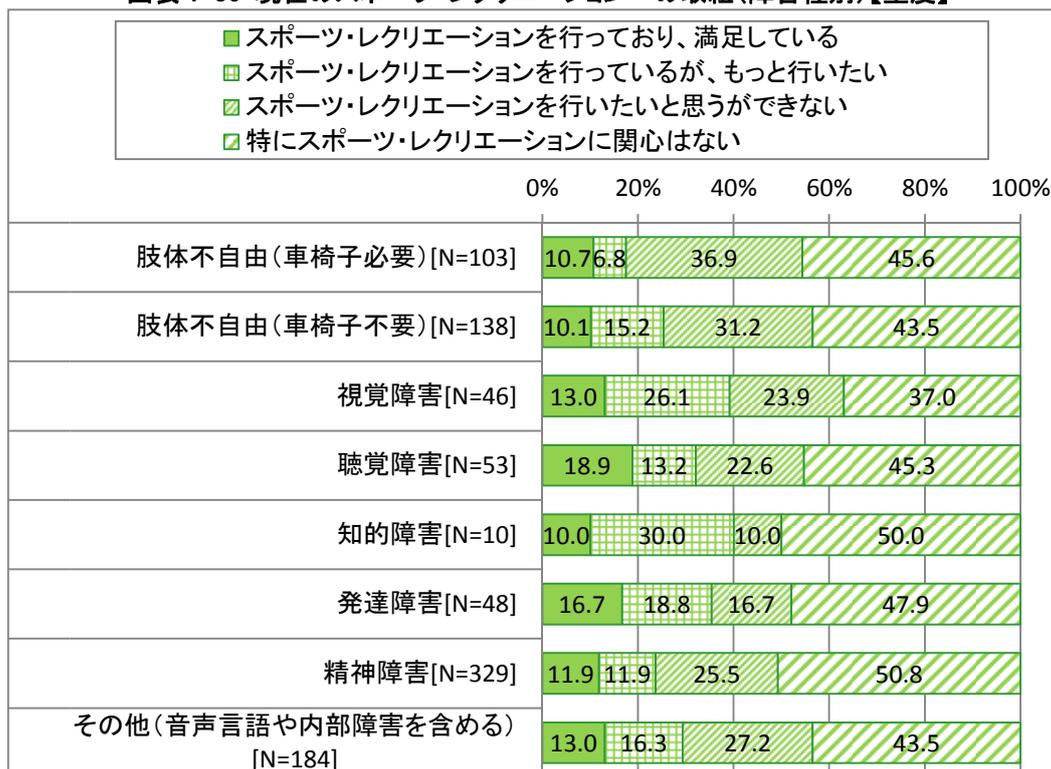
図表 1-35 現在のスポーツ・レクリエーションへの取組(障害種別)



注 1) 車椅子必要／不要とは、日常生活で車椅子を必要とする／必要としないこと。

注 2) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合限定した。

図表 1-36 現在のスポーツ・レクリエーションへの取組(障害種別)【重度】



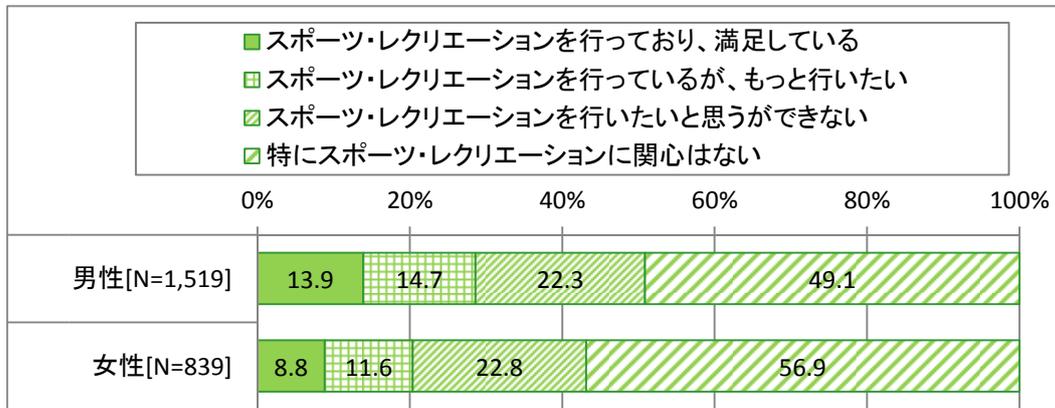
注 1) 車椅子必要／不要とは、日常生活で車椅子を必要とする／必要としないこと。

注 2) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

男女別に見ると、「スポーツ・レクリエーションを行っており、満足している」の男性の割合が高く、「特にスポーツ・レクリエーションに関心はない」無関心層の割合では女性の方が高くなった(図表 1-37)。

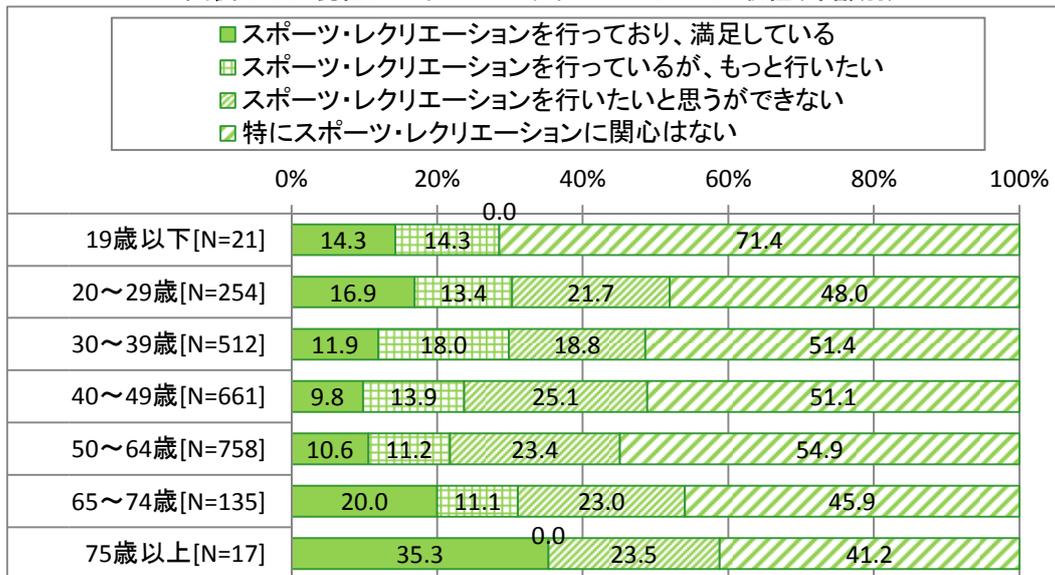
年齢別に見ると、65 歳以上では「スポーツ・レクリエーションを行っており、満足している」割合が 2 割以上になった(図表 1-38)。

図表 1-37 現在のスポーツ・レクリエーションへの取組(性別)



注) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

図表 1-38 現在のスポーツ・レクリエーションへの取組(年齢別)



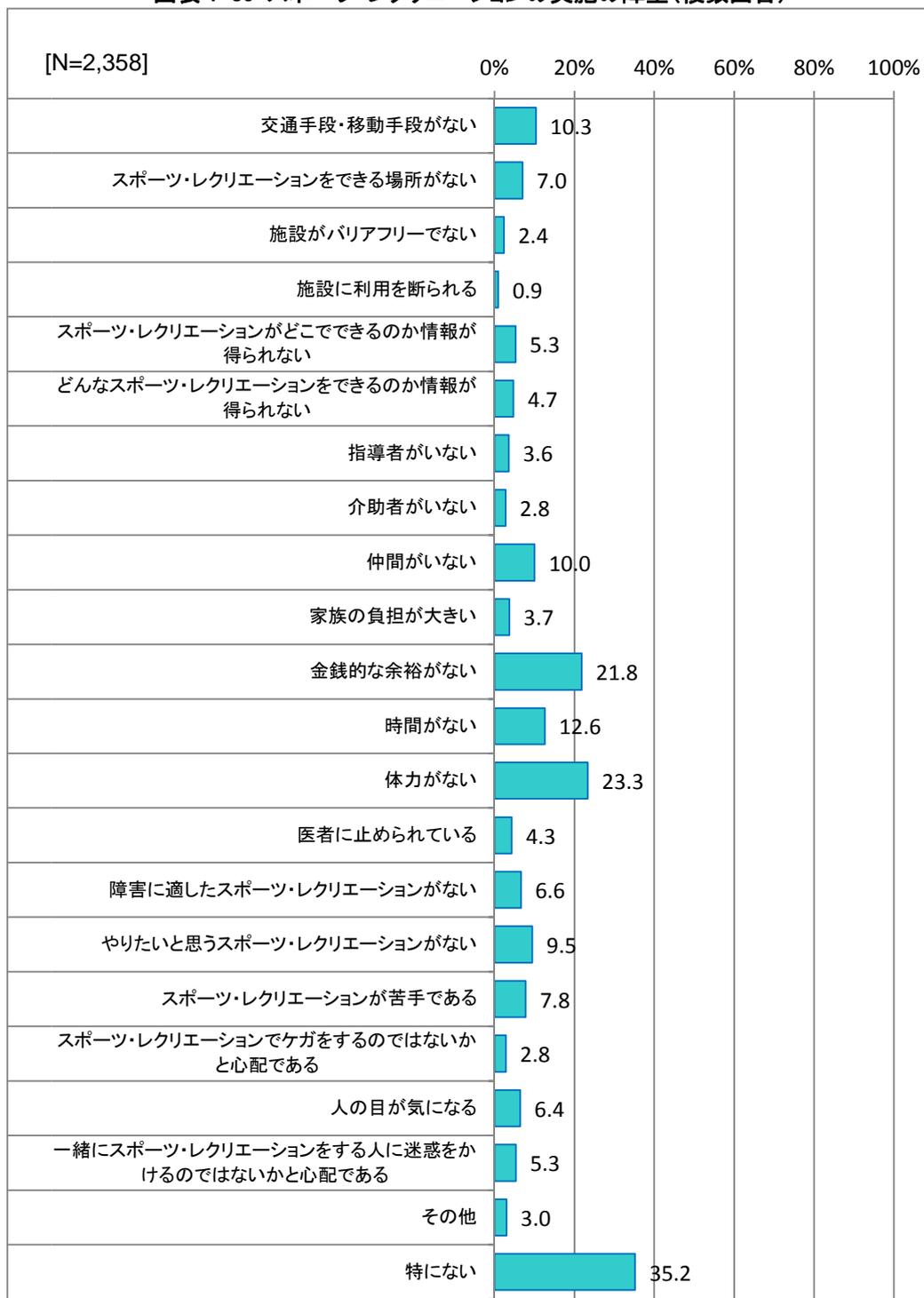
(9) スポーツ・レクリエーションの実施の障壁

スポーツ・レクリエーションの実施において障壁となっているものについて尋ねたところ、「特にない」が35.2%であった。障壁があると回答した中では、「体力がない」(23.3%)が最も多く、次いで「金銭的な余裕がない」(21.8%)、「時間がない」(12.6%)、「交通手段・移動手段がない」(10.3%)、「仲間がいない」(10.0%)であった(図表 1-39)。

障害種別に見ると、前述の障壁に加えて、肢体不自由では車椅子の要・不要にかかわらず、「障害に適したスポーツ・レクリエーションがない」、視覚障害では「スポーツ・レクリエーションをできる場所がない」、発達障害では「スポーツ・レクリエーションが苦手である」「人の目が気になる」が上位になった(図表 1-40)。

障害の程度を重度に絞り、障害種別に見ると、肢体不自由、視覚障害において、「体力がない」「交通手段・移動手段がない」「金銭的な余裕がない」が上位になった(図表 1-41)。

図表 1-39 スポーツ・レクリエーションの実施の障壁(複数回答)



注) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

図表 1-40 スポーツ・レクリエーションの実施の障壁(複数回答)

(%)

	(車椅子 必要)	(車椅子 不要)	視覚障害	聴覚障害	知的障害	発達障害	精神障害	その他 (音声言語 を含める)や	
									N=164
1位	体力がない	25.0	19.2	19.8	16.4	22.5	30.6	33.1	30.0
2位	交通手段・移動手段 がない	20.7	18.2	17.0	15.0	12.5	17.6	31.7	17.6
3位	金銭的な余裕がない	18.3	12.2	14.3	13.3	12.5	16.5	16.5	11.4
4位	障害に適したスポーツ・レクリエーション がない	17.1	10.7	13.2	9.3	10.0	15.3	12.9	9.8
5位	スポーツ・レクリエーションがどこでも できる情報が得られない	14.0	9.4	11.5	8.0	10.0	15.3	12.8	9.2
	特になし	26.8	38.9	35.7	41.2	55.0	35.9	28.0	34.1

注 1) 車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

注 2) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

図表 1-41 スポーツ・レクリエーションの実施の障壁(複数回答)【重度】

(%)

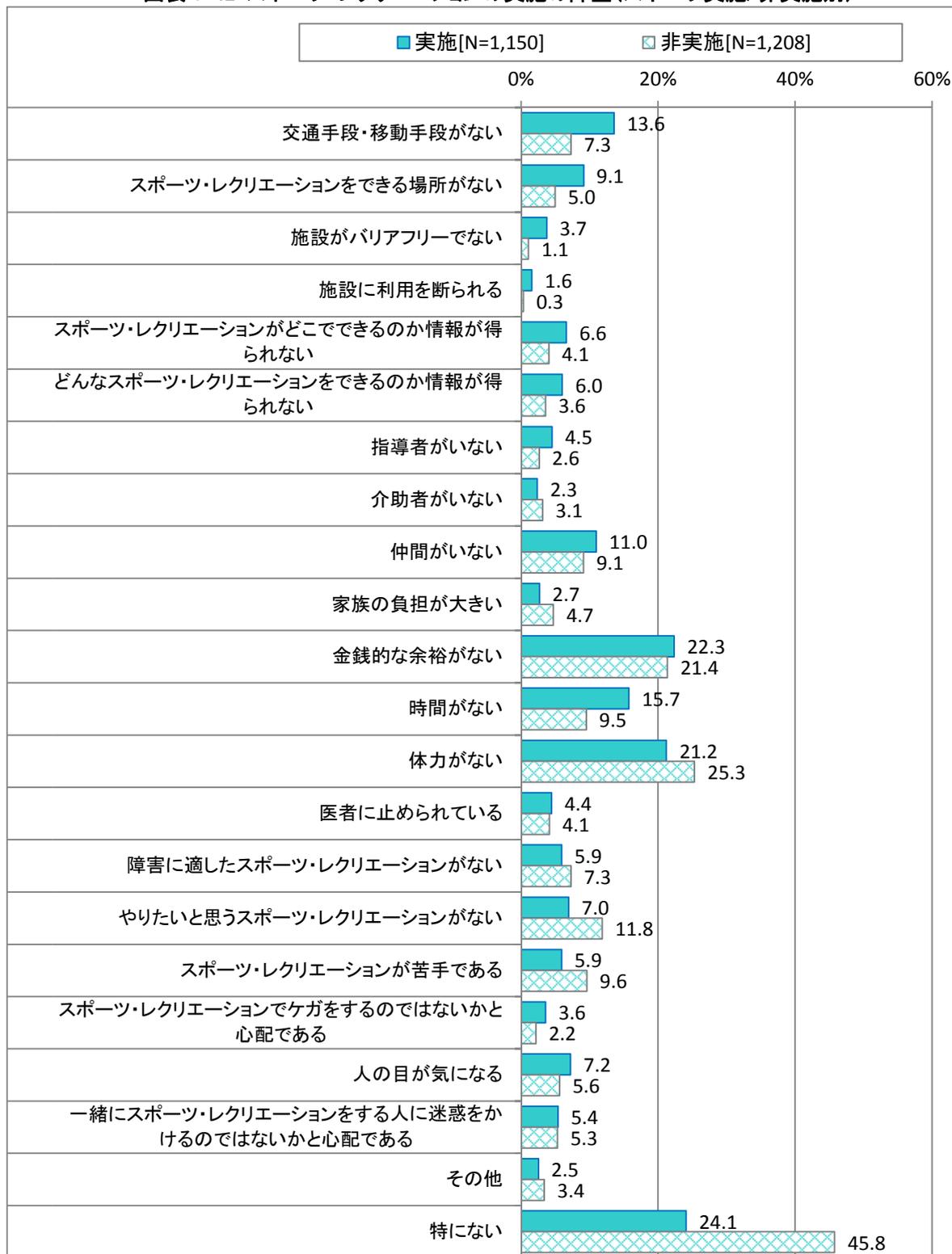
	(車椅子が必要)		(車椅子が不要)		視覚障害	聴覚障害	知的障害	発達障害	精神障害	その他の障害(音声言語や)
	N=103	N=138	N=46	N=53						
1位	体力がない	金銭的な余裕がない	交通手段・移動手段がない	37.0 時間がない	18.9	40.0 交通手段・移動手段がない	35.4 金銭的な余裕がない	37.4 金銭的な余裕がない	33.7	体力がない
2位	交通手段・移動手段がない	27.2 体力がない	21.0 金銭的な余裕がない	17.4 金銭的な余裕がない	15.1 仲間がいない	40.0	スポーツ・レクリエーションが苦手である	27.1 体力がない	21.2	金銭的な余裕がない
3位	障害に適したスポーツ・レクリエーションがない	25.2 時間がない	14.5 障害に適したスポーツ・レクリエーションがない	15.2 仲間がいない	13.2	30.0	体力がない	18.8 仲間がいない	13.6	時間がない
4位	金銭的な余裕がない	23.3 時間がない	13.0	13.0 体力がない	11.3	30.0	仲間がいない	16.7 仲間がいない	13.0	医師に止められている
5位	スポーツ・レクリエーションをできる場所がない	17.5 仲間がいない	11.6 施設がバリアフリーでない	10.9 仲間がいない	11.3	20.0	交通手段・移動手段がない	14.6 仲間がいない	9.8	障害に適したスポーツ・レクリエーションがない
	特になし	12.6 特になし	27.5 特になし	17.4 特になし	34.0 特になし	30.0 特になし	25.0 特になし	23.1 特になし	32.1	特になし

注 1) 車椅子必要／不要とは、日常生活で車椅子を必要とする／必要としないこと。

注 2) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

スポーツの実施／非実施別に見ると、「交通手段・移動手段がない」「スポーツ・レクリエーションをできる場所がない」「時間がない」においては、実施者の割合が高く、「体力がない」「やりたいと思うスポーツ・レクリエーションがない」「スポーツ・レクリエーションが苦手である」においては、非実施者の割合が高かった(図表 1-42)。「特にない」の非実施者の割合も高かった。

図表 1-42 スポーツ・レクリエーションの実施の障壁(スポーツ実施/非実施別)



注) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

(10) 今後行いたいと思うスポーツ・レクリエーション

今後行いたいと思うスポーツ・レクリエーション(現在行っているスポーツ・レクリエーションを含む)については、どの障害においても「特にない」との回答が多かった。行いたいと思うスポーツ・レクリエーションの中では、「散歩(ぶらぶら歩き)」「ウォーキング」「筋力トレーニング」の回答が多く(図表 1-43)、この傾向は、過去 1 年間に行ったスポーツ・レクリエーション(図表 1-20、図表 1-21、図表 1-22)と同様の結果である。また、笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」(2012)においても、「散歩(ぶらぶら歩き)」「ウォーキング」「筋力トレーニング」の実施希望が高く、本調査も同じ傾向を示した。

図表 1-43 今後行いたいと思うスポーツ・レクリエーション(障害種別・成人: N=2,337) (複数回答) (%)

	(重肢 機体不 自由要)	N=164	(重肢 機体不 自由要)	N=608	視覚障害	N=182	聴覚障害	N=225	知的障害	N=38	発達障害		N=161	精神障害	N=800	内その他 障害(含 めざる 語や)	N=424	スポーツ 11(参 20ラ考 01イ 4)		N=2,000	体力 (平 成25 年1 月)	N=1,897	
											25.5	26.1						24.3	27.3				53.9
1位	重いテニス	6.1	18.4	ウオーキング	17.6	ウオーキング	18.2	ウオーキング	18.4	ウオーキング	25.5	26.1	24.3	ウオーキング	27.3	ウオーキング(歩歩)	24.3	ウオーキング	27.3	ウオーキング(歩歩)	53.9	ウオーキング(歩歩)	53.9
2位	キャッチボール	16.6	16.6	散歩(ぶらぶら歩き)	16.5	散歩(ぶらぶら歩き)	15.1	ウオーキング	23.0	ウオーキング	23.0	ウオーキング	25.4	ウオーキング	23.0	ウオーキング	22.6	散歩(ぶらぶら歩き)	25.4	散歩(ぶらぶら歩き)	30.4	散歩(ぶらぶら歩き)	30.4
3位	体操(軽い体操、ラジオ体操など)			水泳	12.1	水泳	12.0	水泳	13.2	水泳	17.4	水泳	16.3	水泳	17.2	水泳	10.4	筋力トレーニング	17.2	水泳	20.6	水泳	20.6
4位	筋力トレーニング(マシントレーニング)	13.0	13.0	筋力トレーニング(マシントレーニング)	8.2	筋力トレーニング(マシントレーニング)	9.3	海水浴		海水浴	9.3	筋力トレーニング(マシントレーニング)	11.5	ヨーガ	15.6	ランニング(ジョギング)	15.6	ランニング(ジョギング)	15.6	ランニング(ジョギング)	15.0	ランニング(ジョギング)	15.0
5位	ウオーキング	5.5	9.4	サイクリング	8.2	サイクリング	8.4	ダンス(社交ダンス、フォークダンス、フラダンスなど)	10.5	水中歩行	9.9	水中歩行	10.0	ヨーガ	9.0	テニス、ソフトテニス、バドミントン、卓球(軽いテニスを含む)	13.7	テニス、ソフトテニス、バドミントン、卓球(軽いテニスを含む)	13.7	テニス、ソフトテニス、バドミントン、卓球(軽いテニスを含む)	14.3	テニス、ソフトテニス、バドミントン、卓球(軽いテニスを含む)	14.3
6位	散歩(ぶらぶら歩き)		8.2	ジョギング・ランニング		ジョギング・ランニング	7.6	水中歩行	10.5	水中歩行	9.9	水中歩行	10.0	ヨーガ	13.2	ゴルフ	13.2	ヨーガ	13.2	ゴルフ	12.3	ゴルフ	12.3
7位	水泳		6.7	海水浴	7.7	海水浴		スキー		スキー	9.3	ジョギング・ランニング	9.8	ゴルフ(コース)	7.8	室内運動器具を使って する運動	11.4	室内運動器具を使って する運動	11.4	室内運動器具を使って する運動	11.4	室内運動器具を使って する運動	11.4
8位	水中歩行		6.1	ハイキング		ハイキング	7.1	キャッチボール		キャッチボール		筋力トレーニング(マシントレーニング)	9.5	登山	7.3	登山(クライミングを含む)	10.9	登山	10.9	登山(クライミングを含む)	10.9	登山(クライミングを含む)	10.9
9位	海水浴		5.6	ヨーガ	6.6	筋力トレーニング(ダンベル・目車のトレーニング)	6.7	野球		野球		水中歩行	9.0	ジョギング・ランニング	7.1	ジョギング・ランニング	10.3	ジョギング・ランニング	10.3	ジョギング・ランニング	10.3	ジョギング・ランニング	10.3
10位	釣り	4.9	5.6	釣り	6.0	釣り	6.2	ボウリング		ボウリング	8.1	サイクリング	8.0	キャンプ	6.8	ボウリング	9.9	ボウリング	9.9	ボウリング	10.2	ボウリング	10.2
11位	ふうせんハレー	4.3	5.3	キャッチボール	5.5	ハイキング		釣り		釣り	7.5	ハイキング	7.6	ハイキング		ハイキング	9.8	ハイキング	9.8	ハイキング	8.5	ハイキング	8.5
	特になし	46.3	45.1	特になし	37.4	特になし	41.8	特になし	52.8	特になし	41.6	特になし	37.6	特になし	40.1	今後、行いたいと思う 運動・スポーツはない	17.5	今後、行いたいと思う 運動・スポーツはない	17.5	今後、行いたいと思う 運動・スポーツはない	17.5	今後、行いたいと思う 運動・スポーツはない	17.5

注 1) 車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

注 2) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害者本人が障害者である場合に限定した。

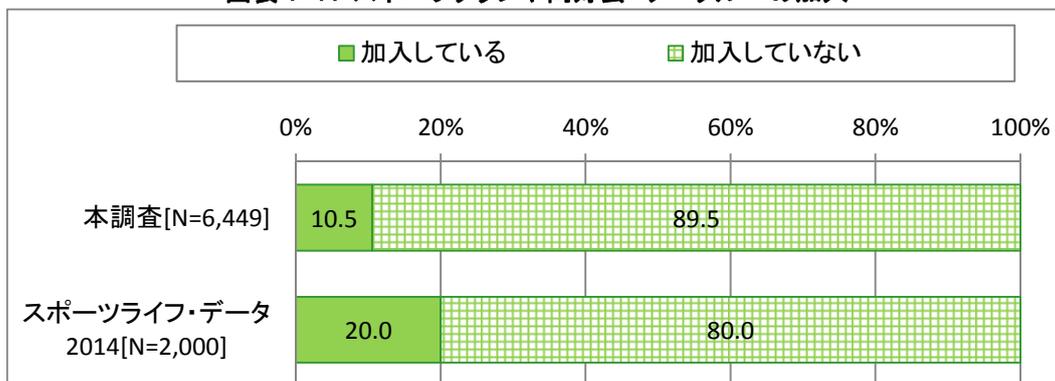
注 3) 笹川スポーツ財団「スポーツライフ・データ」(2012): 成人を対象とした全国調査。

注 4) 文部科学省「体力・スポーツに関する世論調査」(平成 25 年 1 月): 全国 20 歳以上の日本国籍を有する者が対象。

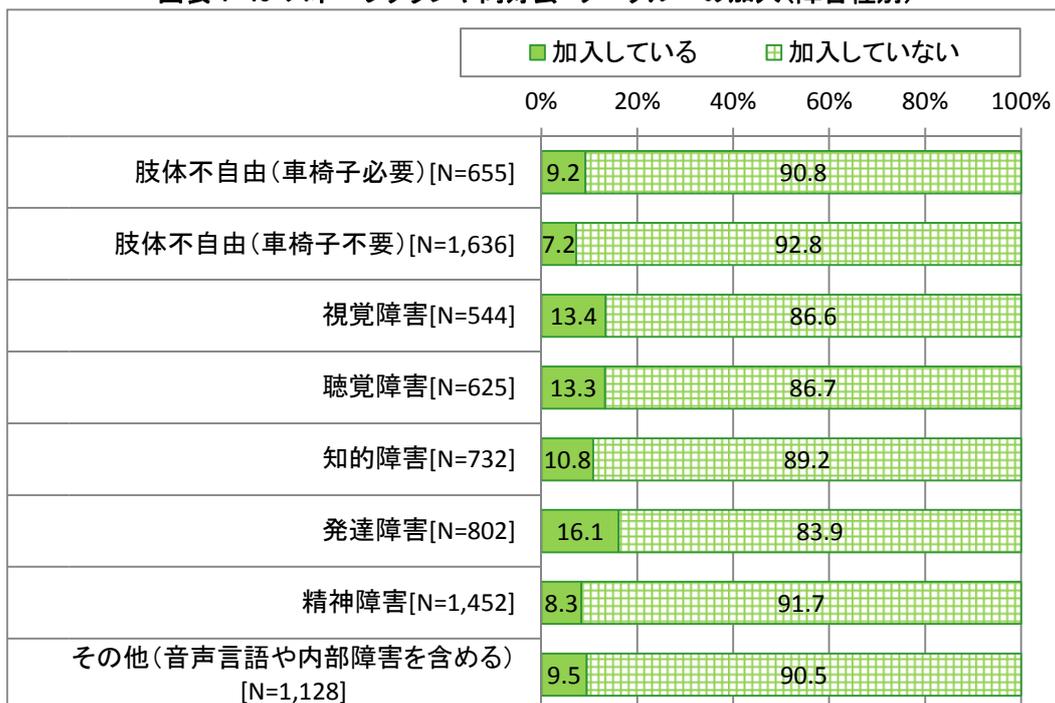
(11) スポーツクラブや同好会・サークルへの加入

スポーツクラブや同好会・サークルに加入しているかについて尋ねたところ、「加入している」は 10.5%であった(図表 1-44)。笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」(2014)では、スポーツクラブや同好会・サークルに加入しているのは 20.0%であり、障害者の加入率は約半分であった。障害種別に見ると、発達障害で 16.1%、視覚障害で 13.4%、聴覚障害で 13.3%が加入していた(図表 1-45)。

図表 1-44 スポーツクラブや同好会・サークルへの加入

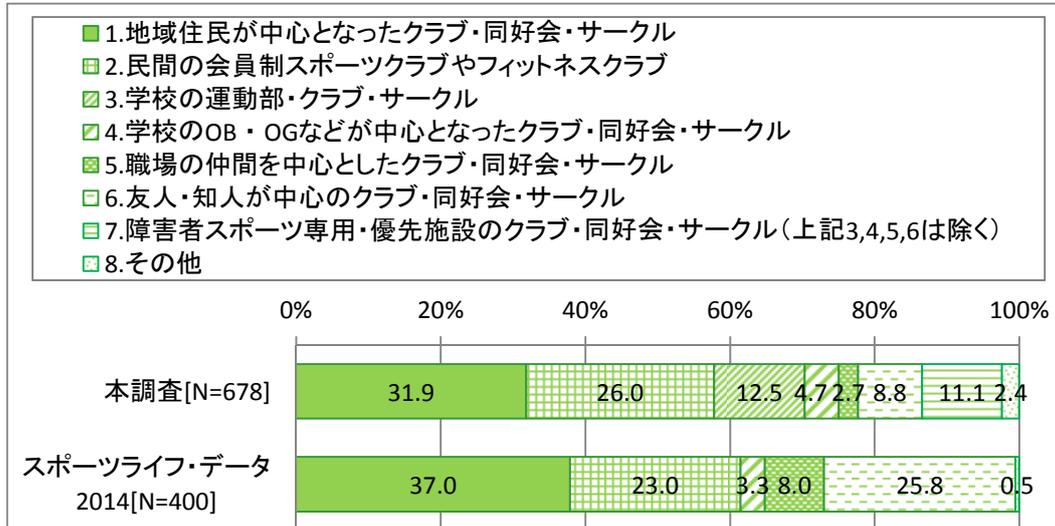


図表 1-45 スポーツクラブや同好会・サークルへの加入(障害種別)



加入しているスポーツクラブや同好会・サークルの主な構成団体について見ると、「地域住民が中心となったクラブ・同好会・サークル」(31.9%)が最も多く、次いで「民間の会員制スポーツクラブやフィットネスクラブ」(26.0%)、「学校の運動部・クラブ・サークル」(12.5%)であった(図表 1-46)。

図表 1-46 加入しているスポーツクラブや同好会・サークルの主な構成団体

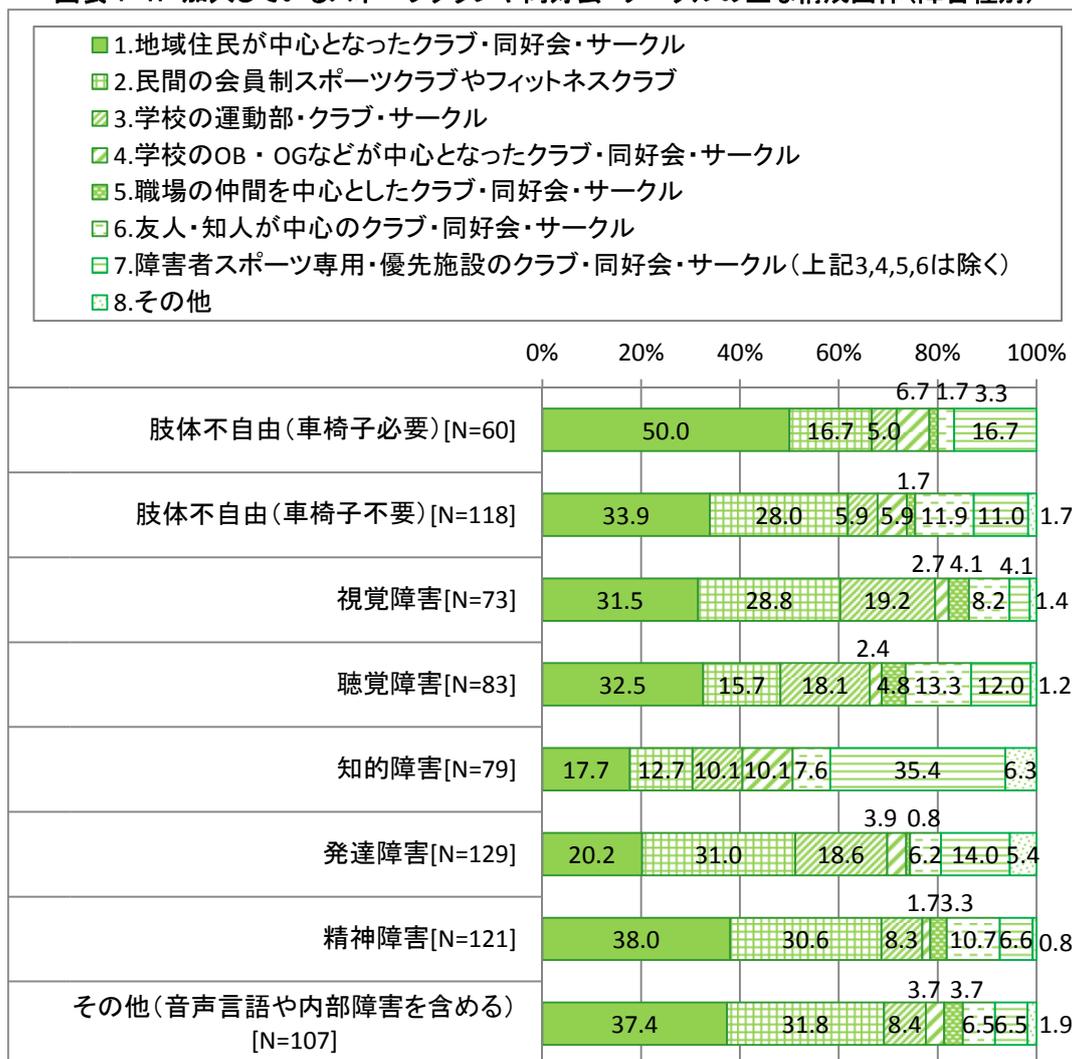


注 1) 笹川スポーツ財団「スポーツライフ・データ」(2014)では、選択肢「3」「7」はない。

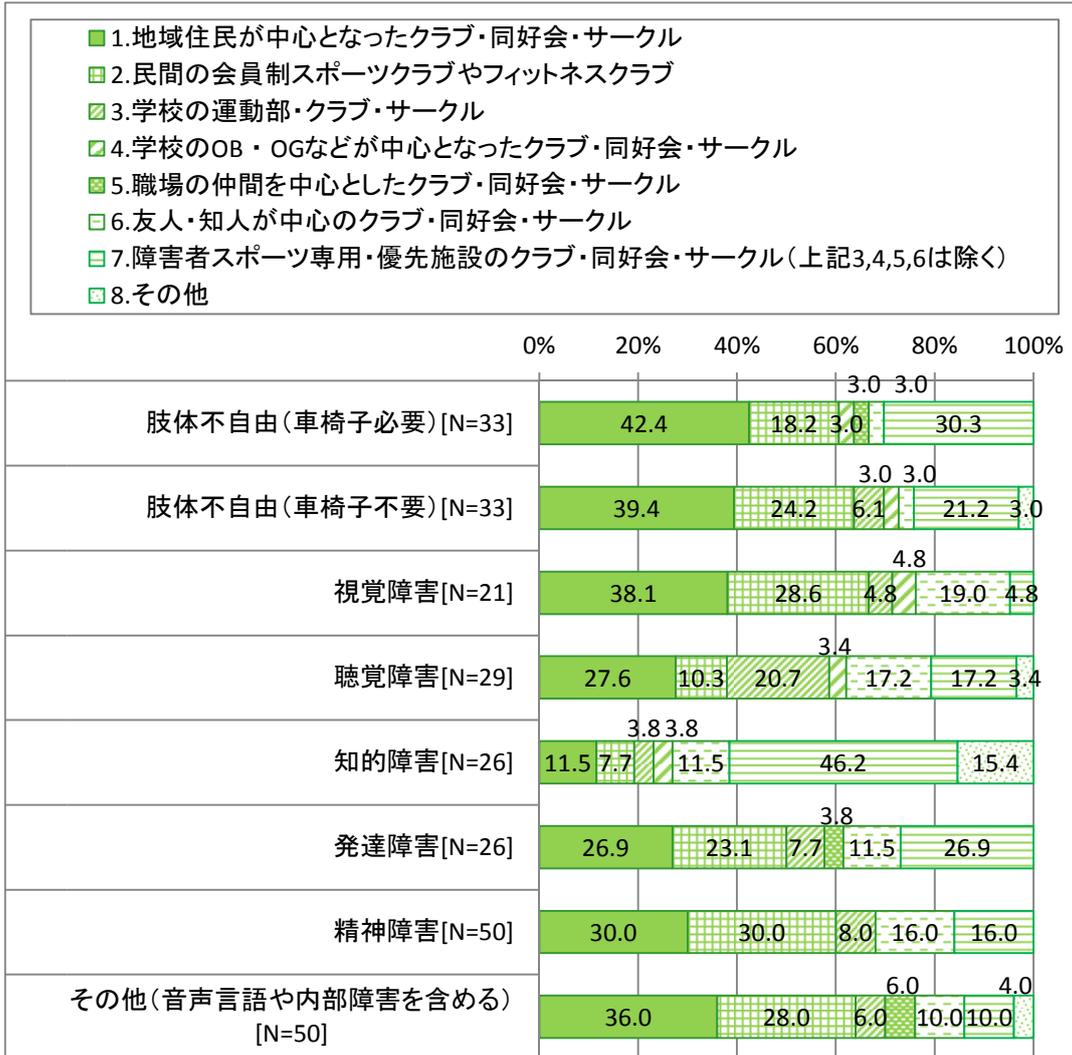
障害種別に見ると、肢体不自由(車椅子必要)では「地域住民が中心となったクラブ・同好会・サークル」(50.0%)、「障害者スポーツ専用・優先施設のクラブ・同好会・サークル」(16.7%)、聴覚障害では「友人・知人が中心のクラブ・同好会・サークル」(13.3%)、知的障害では「障害者スポーツ専用・優先施設のクラブ・同好会・サークル」(35.4%)がほかの障害に比べて高かった(図表 1-47)。

障害の程度を重度に絞り、障害種別に見ると、肢体不自由、聴覚障害、知的障害、発達障害において、「障害者スポーツ専用・優先施設のクラブ・同好会・サークル」の割合が高くなった(図表 1-48)。

図表 1-47 加入しているスポーツクラブや同好会・サークルの主な構成団体(障害種別)

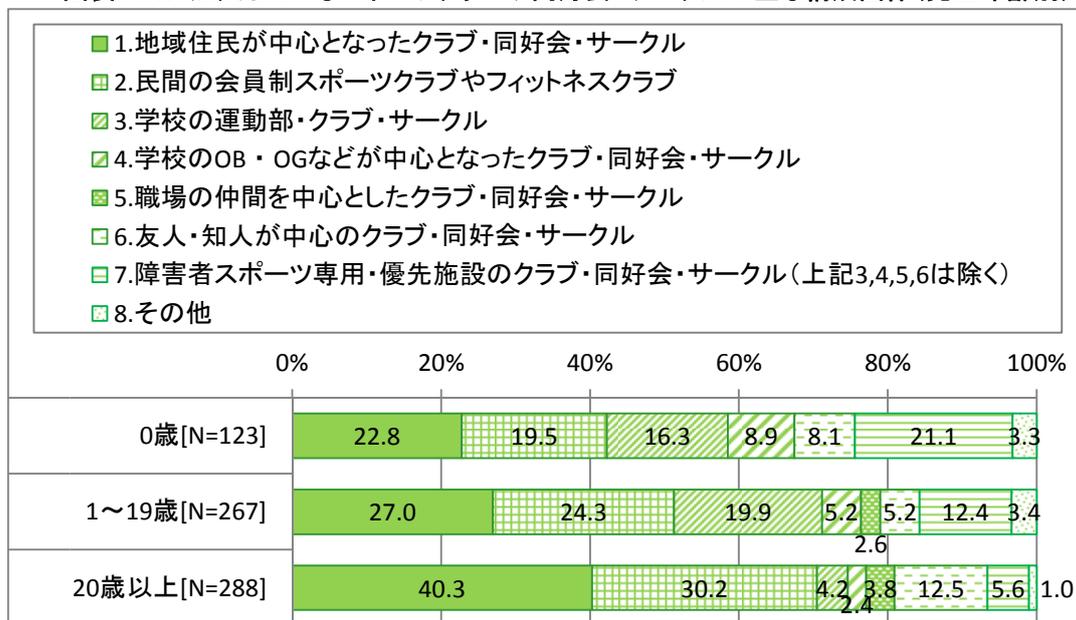


図表 1-48 加入しているスポーツクラブや同好会・サークルの主な構成団体(障害種別)【重度】



発生年齢別に見ると、0歳と1～19歳では、「学校の運動部・クラブ・サークル」の割合が大きく、スポーツへの導入として、学校の運動部活動・クラブ活動が重要であることを示している。20歳以上では「地域住民が中心となったクラブ・同好会・サークル」(40.3%)が高く、障害の発生以前から加入しているクラブ・同好会・サークルに、障害が発生した後も参加していると考えられる(図表 1-49)。

図表 1-49 加入しているスポーツクラブや同好会・サークルの主な構成団体(発生年齢別)



(12) 過去1年間のスポーツ観戦の有無

過去1年間のスポーツ観戦の有無では、直接のスポーツ観戦、テレビでのスポーツ観戦、インターネットでのスポーツ観戦の全てにおいて、「観戦した種目はない」が最も多かった。特にテレビでのスポーツ観戦において「観戦した種目はない」が45.3%存在し、笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」(2014)の9.2%と比較して著しく高い(図表1-50)。また、直接のスポーツ観戦については、約7割が「観戦した種目はない」と回答しており、スポーツ観戦の環境整備も課題であることが伺える。

観戦した種目を見ると、直接のスポーツ観戦では「プロ野球(NPB)」「高校野球」「Jリーグ(J1、J2、J3)」、テレビでのスポーツ観戦では「プロ野球(NPB)」「大相撲」「高校野球」、インターネットでのスポーツ観戦では「プロ野球(NPB)」「高校野球」「メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)」が多かった。

図表 1-50 過去1年間のスポーツ観戦の有無(複数回答)

(%)

	直接スポーツの試合を観戦したことがある			テレビでスポーツの試合を観戦したことがある			インターネットでスポーツの試合を観戦したことがある
	本調査(全体)	本調査(成人)	スポーツライフ・データ2014	本調査(全体)	本調査(成人)	スポーツライフ・データ2014	本調査(全体)
	N=6,449	N=5,499	N=2,000	N=6,449	N=5,499	N=2,000	N=6,449
プロ野球(NPB)	18.5	19.1	15.8	34.9	37.2	59.4	7.9
メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	1.9	2.0	0.2	14.4	15.9	24.8	1.6
高校野球	5.8	6.2	5.3	23.5	25.6	47.9	2.0
アマチュア野球(大学、社会人など)	2.0	2.2	2.6	4.3	4.8	4.1	0.7
Jリーグ(J1、J2、J3)	4.6	4.6	5.5	13.0	13.9	26.3	1.5
海外プロサッカー(欧州、南米など)	0.8	0.9	0.2	7.7	8.3	14.3	1.2
サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	1.6	1.7	0.7	20.4	21.9	51.5	1.1
サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)	0.7	0.7	0.4	18.9	20.5	44.1	1.0
サッカー(高校、大学、JFLなど)	1.2	1.2	2.3	5.2	5.6	12.3	0.7
プロバスケットボール(bjリーグ)	0.7	0.8	1.0	2.8	3.1	3.1	0.7
海外プロバスケットボール(NBAなど)	0.5	0.6	0.1	3.0	3.3	3.4	0.7
バスケットボール(高校、大学、JBLなど)	0.6	0.7	1.5	2.0	2.2	2.1	0.5
バレーボール(日本代表試合)	0.8	0.9	0.4	9.2	10.3	30.3	0.5
バレーボール(高校、大学、Vリーグなど)	0.9	0.9	0.7	3.4	3.8	7.5	0.5
大相撲	3.0	3.3	0.8	24.7	27.4	38.7	1.0
マラソン・駅伝	2.4	2.5	4.8	19.8	21.6	45.7	0.9
ラグビー	1.0	1.1	0.9	5.4	6.1	8.0	0.4
プロテニス	0.8	0.8	0.2	14.3	15.7	19.0	0.9
プロゴルフ	0.8	0.9	1.5	10.2	11.4	26.3	0.6
フィギュアスケート	1.0	0.9	0.4	19.2	20.4	57.4	1.0
格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	1.5	1.5	1.3	9.5	10.5	27.3	1.0
F1やNASCARなど自動車レース	1.1	1.2	0.3	5.7	6.3	8.7	0.9
障害者スポーツ	0.9	1.1	-	2.7	3.0	-	0.4
その他	0.3	0.3	0.2	0.7	0.6	1.8	0.3
観戦した種目はない	71.5	71.1	68.5	45.3	42.8	9.2	84.0

障害種別に見ると、直接観戦、テレビ観戦ともに、肢体不自由(車椅子必要)、知的障害、発達障害の観戦率がほかの障害に比べて低かった(図表 1-51、1-52)。

図表 1-51 過去 1 年間のスポーツ観戦の有無【直接観戦】(障害種別)

(%)

直接観戦	肢体不自由(車椅子必要)	肢体不自由(車椅子不要)	視覚障害	聴覚障害	知的障害	発達障害	精神障害	その他(音声言語や内部障害を含める)
	N=655	N=1,636	N=544	N=625	N=732	N=802	N=1,452	N=1,128
プロ野球(NPB)	11.5	16.8	18.9	21.9	14.8	15.7	21.3	19.4
メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	1.4	1.7	2.2	2.4	1.4	0.9	2.1	2.7
高校野球	3.4	4.9	5.1	7.5	2.9	4.4	7.9	6.5
アマチュア野球(大学、社会人など)	1.4	2.1	1.7	3.2	1.2	1.2	2.1	2.8
Jリーグ(J1、J2、J3)	2.7	3.7	2.8	4.8	4.0	4.9	5.9	5.5
海外プロサッカー(欧州、南米など)	0.8	0.9	0.7	0.5	0.3	0.5	1.0	1.1
サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	2.1	1.5	1.7	1.9	0.8	1.4	1.7	1.9
サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)	1.1	0.7	0.6	0.6	0.1	0.4	0.8	0.9
サッカー(高校、大学、JFL など)	1.1	1.3	1.3	2.2	0.7	1.1	1.4	1.1
プロバスケットボール(bj リーグ)	0.6	0.7	0.6	1.0	0.7	0.9	1.0	0.8
海外プロバスケットボール(NBA など)	0.5	0.5	0.7	0.8	0.1	0.4	0.6	0.7
バスケットボール(高校、大学、JBL など)	0.8	0.7	0.2	0.3	0.4	0.2	1.0	1.2
バレーボール(日本代表試合)	0.8	0.9	0.4	1.1	0.5	0.2	1.2	0.7
バレーボール(高校、大学、Vリーグなど)	0.8	1.0	0.2	1.3	0.5	0.5	1.0	1.3
大相撲	2.3	3.1	3.5	5.0	1.1	1.9	3.7	3.4
マラソン・駅伝	1.7	2.0	3.1	2.2	1.0	2.4	3.2	2.3
ラグビー	1.1	0.7	1.1	0.5	0.4	0.7	1.4	1.8
プロテニス	0.6	1.0	0.7	1.0	0.3	0.7	0.9	1.1
プロゴルフ	0.9	0.7	0.9	1.3	0.4	0.2	0.6	1.5
フィギュアスケート	0.8	0.7	0.7	1.3	0.1	0.6	1.4	1.2
格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	0.8	1.6	0.7	1.8	0.5	1.0	2.2	2.1
F1 や NASCAR など自動車レース	0.5	1.2	0.9	0.8	0.4	0.9	1.6	1.4
障害者スポーツ	1.4	0.9	0.9	0.6	1.2	0.6	1.2	1.2
その他		0.2	0.7	0.5	0.4	0.5	0.3	0.3
観戦した種目はない	81.2	74.2	70.2	67.2	76.9	72.8	67.7	70.3

図表 1-52 過去 1 年間のスポーツ観戦の有無【テレビ観戦】(障害種別)

(%)

テレビ観戦	肢体不自由(車椅子必要)	肢体不自由(車椅子不要)	視覚障害	聴覚障害	知的障害	発達障害	精神障害	その他(音声言語や内部障害を含める)
	N=655	N=1,636	N=544	N=625	N=732	N=802	N=1,452	N=1,128
プロ野球(NPB)	34.5	35.5	34.0	38.1	24.0	23.6	39.2	40.3
メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	13.7	14.2	11.2	14.2	7.4	9.1	18.7	20.1
高校野球	25.5	24.8	18.6	23.7	13.4	16.6	27.8	30.2
アマチュア野球(大学、社会人など)	4.4	4.3	3.3	5.3	2.0	2.7	5.5	6.5
Jリーグ(J1、J2、J3)	11.1	12.5	9.4	12.5	8.2	10.5	16.9	16.5
海外プロサッカー(欧州、南米など)	6.1	7.7	7.0	8.0	4.1	4.6	10.1	10.2
サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	16.9	21.6	14.9	22.4	9.6	16.0	24.2	24.7
サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)	16.0	20.4	14.5	20.0	8.6	12.2	22.8	23.6
サッカー(高校、大学、JFL など)	6.0	4.8	4.2	6.2	2.7	3.5	6.7	7.2
プロバスケットボール(bjリーグ)	2.1	2.8	1.8	2.6	1.6	2.2	4.1	3.9
海外プロバスケットボール(NBA など)	2.0	3.1	1.8	3.2	0.8	2.1	4.5	4.3
バスケットボール(高校、大学、JBL など)	1.7	1.8	1.3	1.9	0.8	1.6	3.2	2.7
バレーボール(日本代表試合)	9.5	9.3	5.3	9.9	4.5	5.0	12.7	12.1
バレーボール(高校、大学、Vリーグなど)	2.9	3.8	1.5	3.4	1.8	1.9	4.1	5.6
大相撲	26.0	27.2	23.5	28.2	16.3	14.2	28.1	33.2
マラソン・駅伝	20.0	20.4	17.3	21.0	11.5	13.0	23.5	26.2
ラグビー	4.7	5.6	5.1	4.8	1.8	2.5	6.8	9.4
プロテニス	13.7	14.3	11.8	12.8	5.9	10.0	17.5	20.6
プロゴルフ	10.4	11.4	8.1	11.4	3.3	5.0	11.3	16.4
フィギュアスケート	17.9	18.6	15.4	18.9	11.3	15.8	24.7	24.1
格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	8.5	9.1	6.4	10.4	2.7	5.9	13.3	13.7
F1 や NASCAR など自動車レース	3.7	5.6	3.7	5.1	1.8	2.9	9.0	8.0
障害者スポーツ	3.8	2.8	2.2	2.1	1.9	2.2	3.9	3.5
その他	0.8	0.4	1.8	0.5	0.8	1.0	0.8	0.6
観戦した種目はない	46.7	46.1	43.4	39.8	60.1	55.5	40.8	38.5

3. 調査結果の分析

3. 1 障害者手帳保有数と必ずしも一致しない障害者の実態（図表 1-9～1-11）

【障害者数と手帳保持者数】

厚生労働省の統計(2011年度)によると、我が国の障害者の数は、
身体障害者:3,937,000人 / 知的障害者:741,000人 / 精神障害者:3,201,000人
合計 7,879,000人である。

これに対し、障害者手帳の所持者の数は、
身体障害者:3,863,800人 / 知的障害者:621,700人 / 精神障害者:567,600人
合計 5,053,100人である。

また、手帳非所持で自立支援給付を受けている者が三障害の合計で 319,900人となっている。

本調査では、回答者の 40.2%が手帳の非保持者であり、国の統計に比べて、非保持者の割合が高い。本調査における障害者は、「あなた、あるいはあなたが同居するご家族で障害のある方はいますか」の問に「はい」と回答した者である。国の統計において障害者に含まれない者が多く回答したことになる。

(1) 肢体不自由（車椅子必要）

「障害者手帳を持っていない」(26.9%)者の中には、介護保険制度を利用して、車椅子を確保(レンタル・購入)した高齢障害者が含まれると推察される。

(2) 視覚障害

「障害者手帳を持っていない」(44.6%)が約半数であるが、日常生活で自動車の運転に支障がない視覚障害者(弱視)の中には、障害者手帳の交付により、運転免許が更新できなくなることを懸念して、あえて障害者手帳を取得しない者もいると考えられる。

(3) 聴覚障害

片耳だけ聞こえる場合は障害者手帳の交付対象にならない。加齢により徐々に聴力が低下した者の中には、自分が手帳の交付対象であるかを認識していないケースもある。よって、「障害者手帳を持っていない」の 43.6%は想定しうる値である。

(4) 知的障害・発達障害

発達障害により日常生活や社会生活において支援が必要な場合には、精神障害者保健福祉手帳の対象となる。2005年の発達障害者支援法が手帳取得の後押しとなり、取得者が増加した。「障害者手帳を持っていない」が 42.9%というのは、保護者が手帳の必要性やメリットを感じていないためではないだろうか。また、診断を受けても日常生活に影響がない場合には取得しないケースもある。療育手帳の取得時期は、特別支援学校(高等部)への進学と就労のタイミングが特に多いと言われている。

(5) 精神障害

当事者支援団体の方針や医師の判断で障害者手帳の取得を薦めないケースもある。また、進行性の症状では寛解(病気の症状が一時的、あるいは継続的に軽減した状態)することがあるため、障害者手帳の取得が難しい場合もある。

3. 2 障害種別に見られるスポーツ実施状況・実施種目の多様性（図表 1-16～1-22）

(1) 肢体不自由（車椅子必要）

週1回以上の実施率がほかの障害に比べて低いのは、当事者やその家族がスポーツ用の車椅子・義足・義手などが高価で購入できないため、日常生活における優先順位を考えた時、スポーツに意識が向かないとも考えられる。

過去1年間の実施種目において、7～19歳、成人ともに、キャッチボールが上位であるが、通常の投げ合うスタイル以外に、ボールを転がし合うキャッチボールなどもあり、2人1組と少人数での実施が可能な上に、気軽に取り組みやすいことが多くの車椅子利用者に受け入れられている要因と考えられる。また、テニスや卓球のウォーミングアップとしてキャッチボールを導入している事例もある。

(2) 知的障害・発達障害

学齢期と成人期の違いは、自分で物事を決定できるかどうかにある。学齢期では、学校など周囲がスポーツする環境（学校体育、部活動・クラブ活動など）を用意していたが、卒業後は自分でスポーツする環境を探し、やりたいスポーツを選択していくことになる。スポーツへのかかわりが受動的から能動的に変わった環境に戸惑い、それを乗り越えられず、スポーツをする機会が減っていくこともある。

(3) 精神障害

症状が不安定な病気であるが、症状が比較的安定した時期に回答したと考えられ、実施率が少し高めに出ている可能性がある。

3. 3 障害種別で異なるスポーツ・レクリエーションの実施の目的（図表 1-26～1-28）

●リハビリテーション

(1) 肢体不自由（車椅子必要）

「健康の維持・増進のため」「リハビリテーションの一環として」が多いのは、身体の残存機能の維持に重きを置いている者がいるためと考えられる。

(2) 視覚障害

「リハビリテーションの一環として」(7.9%)は、リハビリテーションを必要とする障害との重複障害者や、発症後に日常生活に戻るための導入期間に実施したスポーツをリハビリテーションと捉えている者の可能性がある。

(3) 発達障害

「リハビリテーションの一環として」の 12.2%は、ソーシャル・スキル・トレーニング(SST)の一環で、スポーツ活動に参加することが社会性やコミュニケーションの改善につながるという観点から、スポーツをリハビリテーションと捉えている可能性がある。

●健常者との交流

(1) 知的障害

「健常者との交流のため」が 11.1%とほかの障害に比べて多いが、外見などから判断しにくい障害のため、地域での生活のために、①我が子の存在を知ってほしい、②健常者から多くのことを学べるはず、という保護者の思いを反映しているのかもしれない。

●目標や記録への挑戦

(1) 知的障害

「目標や記録への挑戦のため」が 5.6%とほかの障害に比べて高いのは、他者からの働きかけ(動機付け)の方が、意欲を引き出しやすい障害特性に起因していると考えられる。

●楽しみ

(1) 精神障害

「楽しみのため」が少ないのは、スポーツが治療の一環として捉えられているためと考えられる。「体型維持・改善のため」が多いのは、投薬治療の影響などで体重が増加した者が、体重管理を目的にスポーツを行っているケースが考えられる。

3. 4 障害の程度によって異なるスポーツ・レクリエーションへの取組（図表 1-33～1-38）

(1) 肢体不自由（車椅子必要）

「スポーツ・レクリエーションを行いたいと思うができない」がほかの障害と比べて高いが、言い換えると、スポーツ環境が変わることで、スポーツを行う可能性があると言える。ただ、障害特性上、生活の中ですでに多くの障壁に直面しているため、スポーツを行おうと思ったときに、乗り越える障壁の多さに委縮して、スポーツへの関心が薄れてしまう可能性もある。

(2) 聴覚障害

重度障害者（全ろう）をデフ・コミュニティで生活する人と想定した場合、「特にスポーツ・レクリエーションに関心はない」無関心層が、聴覚障害者全体に比べて少なく、「スポーツ・レクリエーションを行っており、満足している」が全体に比べて高い。聴者（ろう者の対義語で、聴覚に障害のない者）と一緒にのときに感じる孤独が、デフ・コミュニティによって解消されている可能性がある。

(3) 知的障害・発達障害

障害特性上、1つの種目を継続的に実施することが難しく、練習を積み重ねて、結果が出て面白いと感じる機会が少ないと考えられる。スポーツを面白いと感じるきっかけに恵まれず、結果として、スポーツに関心がなくなる可能性があり、スポーツが好きになる経験ができるように、環境を整える必要があるのかもしれない。

(4) 精神障害

「スポーツ・レクリエーションを行いたいと思うができない」が約2割だが、障害の特性上、外出が難しく、対人関係の構築も難しいなどの理由が考えられる。

3. 5 障害者コミュニティとの関わりが見える加入クラブやサークルの構成団体（図表 1-46～1-50）

(1) 肢体不自由（車椅子必要）

「地域住民が中心となったクラブ・同好会・サークル」が加入者の約半分と多い。中途障害者が、障害を発症する以前に参加していた地域のクラブ・同好会・サークルにつながりを求めて参加しているとも考えられる。卓球、バドミントン、グラウンド・ゴルフなどは車椅子でも身体の安定を保ちやすい種目である。

(2) 視覚障害

重度の視覚障害者の中には、地域のコミュニティではなく、視覚障害者のコミュニティに所属する者もいる。全体では、「友人・知人が中心のクラブ・同好会・サークル」が 8.2%であるが、障害の程度を重度に絞ると、19.0%と割合が高くなることから、これは視覚障害者のコミュニティでの活動だと考えられる。

(3) 聴覚障害

「友人・知人が中心のクラブ・同好会・サークル」は 13.3%とほかの障害と比べて多いが、障害の程度を重度に絞ると、17.2%と割合が高くなることから、これはデフ・コミュニティの活動だと考えられる。

(4) 知的障害

「障害者スポーツ専用・優先施設のクラブ・同好会・サークル」が 35.4%と高い。障害者スポーツセンターなどの専用・優先施設では、安全に対する配慮が行き届いており、障害特性に合わせた指導ができる指導者が多いため、知的障害者が集まってくると考えられる。